

高幡地域アクションプランの
追加・削除・拡充等（予定項目）

高幡地域本部
令和8年1月29日（木）

地域アクションプランの令和8年度の追加・削除等項目（案）

地域アクションプランの支援の方向性

地域アクションプランの目標の達成に向けて、産業振興推進地域本部を中心に、事業者等の取り組みをきめ細かく支援する。あわせて、市町村等と連携し、地域の新たなチャレンジをしっかりと伴走支援していく。

（1）地域アクションプランの実行支援

- ① 今後産振補助金の活用が見込まれる事業者の事業計画作成を支援。必要に応じて産業振興アドバイザーを投入。
- ② 雇用奨励金事業の活用促進に向け、事業者や市町村への周知を徹底するとともに、活用が見込まれる事業者への支援を強化。

（2）地域の新たなチャレンジを支援

- ① 引き続き、市町村や商工会等と連携し、地域の新しい動きに関する情報収集に努めるとともに、起業を目指す地域おこし協力隊等への個別訪問等により、地域の新たなチャレンジを支援。
- ② 地域に若者の雇用を生み出すため、地域アクションプランのあり方について検討。

地域アクションプランの増減 R7年度 156件 → R8年度 155件

（1）追加（新規）： 1件

- 地域資源を活用した粉炭づくりによる地域の課題解決および活性化（日高村）



（2）削除（廃止）： ▲ 1件

- 地域商業活性化拠点「はれのぼ」を核とした中心市街地の活性化（四万十市）

（3）統合： 2件 → 1件

- ～しまんとがわのまんなか～四万十町観光交流促進事業（四万十町）
- 四万十町観光交流拠点施設の整備（四万十町）

	R7年度 (第5期ver.2)	R8年度 (第5期ver.3)				AP数
	AP数 R8.1月時点	増減				
		追加	削除	統合	計	
安芸	20					20
物部川	19					19
高知市	14					14
嶺北	16					16
仁淀川	33	1			1	34
高幡	24			(2→1) ▲ 1	▲ 1	23
幡多	30		▲ 1		▲ 1	29
合計	156	1	▲ 1	▲ 1	▲ 1	155

高幡地域アクションプラン項目（第5期計画（R7年度）と

第5期計画ver.3（R8年度）の対比表

【高幡地域】

No.	現在(令和7年度)	須崎市	中土佐町	梶原町	津野町	四万十町
		5	4	7	3	9
1	梶原町産キジ肉の販売拡大プロジェクト			●		
2	四万十流域資源のブランド力を活かした地域の活性化					●
3	四万十町畑作振興プロジェクト					●
4	四万十ポークのブランド化の推進					●
5	梶原100年の森林・人づくりプロジェクト ～森と水の文化を紡ぐ～			●		
6	須崎市産養殖マダイ等の販路拡大	●				
7	ゆすはらアメゴの生産・販売促進			●		
8	「鯉乃國水産」ブランドの創出・販売促進		●			
9	道の駅なかとさSEAプロジェクト		●			
10	梶原町産地産地消・外商の促進			●		
11	梶原町産の桜を活用した加工品等の生産・販売拡大			●		
12	津野町産地産地消・外商推進プロジェクト				●	
13	道の駅「あぐり窪川」の機能強化と地域の活性化					●
14	四万十町生姜生産農家と連携した集出荷体制の整備と販売拡大					●
15	高幡地域における広域観光の推進	●	●	●	●	●
16	須崎市海のまちプロジェクト	●				
17	浦ノ内マリパークにおける交流人口の拡大による地域の活性化	●				
18	スケートパークを核とした地域の活性化	●				
19	カツオを起点とした持続可能な観光を主軸とする地域産業の振興		●			
20	梶原町の体験型・滞在型観光の推進			●		
21	津野町まるごと体感！観光推進プロジェクト				●	
22	わざわざいこう「海洋堂ホビー館四万十」を核としたミュージアムのまちづくり					●
23	～しまんとがわのまんなか～四万十町観光交流促進事業					●
24	四万十町観光交流拠点施設の整備					●

No.	改定案(令和8年度)	須崎市	中土佐町	梶原町	津野町	四万十町
		5	4	7	3	8
			●			
1	梶原町産キジ肉の販売拡大プロジェクト					
2	四万十流域資源のブランド力を活かした地域の活性化				●	
3	四万十町畑作振興プロジェクト				●	
4	四万十ポークのブランド化の推進				●	
5	梶原100年の森林・人づくりプロジェクト ～森と水の文化を紡ぐ～			●		
6	須崎市産養殖マダイ等の販路拡大	●				
7	ゆすはらアメゴの生産・販売促進			●		
8	「鯉乃國水産」ブランドの創出・販売促進		●			
9	道の駅なかとさSEAプロジェクト		●			
10	梶原町産地産地消・外商の促進			●		
11	梶原町産の桜を活用した加工品等の生産・販売拡大			●		
12	津野町産地産地消・外商推進プロジェクト				●	
13	道の駅「あぐり窪川」の機能強化と地域の活性化					●
14	四万十町生姜生産農家と連携した集出荷体制の整備と販売拡大					●
15	高幡地域における広域観光の推進	●	●	●	●	●
16	須崎市海のまちプロジェクト	●				
17	浦ノ内マリパークにおける交流人口の拡大による地域の活性化	●				
18	スケートパークを核とした地域の活性化	●				
19	カツオを起点とした持続可能な観光を主軸とする地域産業の振興		●			
20	梶原町の体験型・滞在型観光の推進			●		
21	津野町まるごと体感！観光推進プロジェクト				●	
22	わざわざいこう「海洋堂ホビー館四万十」を核としたミュージアムのまちづくり					●
23	～しまんとがわのまんなか～四万十町観光交流促進事業					●

①統合

高幡地域アクションプランの追加・削除・拡充等(予定項目)

■追加

なし

■削除

なし

■その他(拡充、統合、分割等)

NO.	アクションプラン名	見直しする内容
1	No. 18 スケートパークを核とした地域の活性化(須崎市) 【実施主体】◎須崎市	【修正】 当初 27,000 人を目標値としていたが、県スポーツ推進交付金を活用するにあたり、経済波及効果の見直しを行ったため、R9 目標を下記のとおり上方修正する。 【R9 目標】 (修正前)27,000 人 → (修正後)28,000 人
2	No. 23 ~しまんとかわのまんなか~四万十町観光交流促進事業(四万十町) 【実施主体】◎四万十町、(一社)四万十町観光協会等 No. 24 四万十町観光交流拠点施設の整備(四万十町) 【実施主体】四万十町	【統合】 「No. 24 四万十町観光交流拠点施設の整備」について、花などをテーマとした拠点施設の整備計画の見直しが決定したことを踏まえ、四万十川流域での滞在型観光を推進する「No. 23 ~しまんとかわのまんなか~四万十町観光交流促進事業」の中で町内の周遊促進の取り組みを一体的に取り組むこととし、統合する。

高幡地域アクションプラン

		分野	農業
AP名 (実施地域)	No.1 梶原町産キジ肉の販売拡大プロジェクト (梶原町)		
実施主体	◎(株)四万川、梶原町		
APへの位置づけ	H25.9月		
事業概要	梶原町で生産されているキジ肉の加工品について、安定的な生産体制を確保するとともに町内飲食店での消費の向上を図るとともに、梶原町の特産品として県内外の飲食店や個人への販売拡大、他産地と連携した高知県産キジ肉としての認知度向上の取り組みを行う。		

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
生産体制の確立と生産羽数の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・熟成用恒温高湿庫・冷凍庫の導入（H27）→産振補助金を活用 ・加工施設の新設、加工用機械の導入（R4）→産振補助金を活用 ・鶏舎の新設（R4）→集落活動センター推進事業費補助金を活用 ・ふ化率の向上を目指し、貯卵庫の導入（R5） ・新たな生産者への研修（R5～） ・複合経営プランの作成、県外移住フェアでの周知活動による新規生産者の確保 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第38回地場産業大賞 奨励賞受賞 ・第11回ディスカバー農山漁村の宝奨励賞受賞 ・生産羽数の増加 R3：1,847羽 →R5：2,350羽 ・新商品の開発 R5：1件
販路の開拓・拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・収支計画を含む事業計画の策定（R3） →産振アドバイザー制度を活用 ・販売戦略、新商品開発の検討（R4）→中山間アドバイザーを活用 ・（一財）高知県地産外商公社との連携による営業活動（R4） ・（一財）高知県地産外商公社主催の商談会に出展（R6） 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規取引件数 R2：1件 →R6：2件 ・鶏舎の数 R3：1棟 →R5：3棟 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定的な生産体制の確保 ・新商品開発及び販路開拓 ・営業力の強化 ・認知度及びブランド力の向上
キジ肉消費向上	<ul style="list-style-type: none"> ・いの町本川地区と合同で「土佐のきじ祭り」を開催（R2～） ・高知市内で開催する「ゆすはらフェア」への出店（R4～） ・「ゆすはらグルメウィーク」にて、県外有名シェフによるメニュー開発（R4） ・パンフレット、ユニホームなどの販促資材の製作（R4） ・ECサイトのリニューアル（R5） 	<ul style="list-style-type: none"> ・営業力の強化 ・認知度及びブランド力の向上

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
販売額	1,160万円 (R4)	1,341万円			2,655.4万円

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>生産体制の確立と生産羽数の向上に向けた取り組み</p> <p>■(株)四万川</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規生産者の確保、育成 ・HACCPに沿った衛生管理 ・ふ化率向上のため他産地と連携した生産体制の強化 ・デジタル技術、設備の導入など生産羽数の増加 ・家畜保健所からの指導に基づいた感染症対策 <p>□県（地域本部、家畜保健衛生所）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種支援制度の情報共有、関係機関への橋渡し ・ふ化率向上、感染症対策にかかる指導、情報提供 				
<p>販路の開拓・拡大</p> <p>■(株)四万川</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県外飲食店との取引強化に向けた、（一社）高知県地産外商公社と連携した営業活動 ・県外商談会等への出展と商品のブラッシュアップ ・見本市、高級飲食店、高級旅館など県外市場への販路開拓 ・産振アドバイザー制度を活用した新商品の開発 <p>□県（地域本部）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種支援制度の情報共有、関係機関への橋渡し、伴走支援 				
<p>キジ肉認知度向上・消費拡大に向けた取り組み</p> <p>■(株)四万川</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いの町本川地区と連携した「土佐のきじ祭り」の開催 ・愛媛県鬼北町、いの町本川地区との連携の検討 ・地元梶原高校との連携 <p>□県（地域本部）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種支援制度の情報共有、関係機関への橋渡し 				

高幡地域アクションプラン

		分野	農業
AP名 (実施地域)	No.1 梶原町産キジ肉の販売拡大プロジェクト (梶原町)		
実施主体	◎(株)四万川、梶原町		
APへの位置づけ	H25.9月		
事業概要	梶原町で生産されているキジ肉の加工品について、安定的な生産体制を確保するとともに町内飲食店での消費の向上を図るとともに、梶原町の特産品として県内外の飲食店や個人への販売拡大、他産地と連携した高知県産キジ肉としての認知度向上の取り組みを行う。		

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
生産体制の確立と生産羽数の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・熟成用恒温高湿庫・冷凍庫の導入 (H27) →産振補助金の活用 ・加工施設の新設、加工用機械の導入 (R4) →産振補助金の活用 ・鶏舎の新設 (R4) →集落活動センター推進事業費補助金の活用 ・ふ化率向上を目指し、貯卵庫の導入 (R5)、<u>ふ化器の更新 (R7)</u> ・新たな生産者への研修 (R5~) ・複合経営プランの作成、県外移住フェアでの周知活動による新規生産者の確保 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第38回地場産業大賞 奨励賞受賞 ・第11回ディスカバー農山漁村の宝奨励賞受賞 ・生産羽数の増加 R3: 1,847羽 →<u>R6: 4,972羽</u> ・新規取引件数 R2: 1件 →R6: <u>2件</u>
販路の開拓・拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・収支計画を含む事業計画の策定 (R3) →産振アドバイザー制度を活用 ・販売戦略、新商品開発の検討 (R4) →中山間アドバイザーを活用 ・(一財)高知県地産外商公社との連携による営業活動 (R4~) ・(一財)高知県地産外商公社主催の商談会に出展 (R6~) ・<u>県名古屋事務所との連携による営業活動 (R7)</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・鶏舎の数 R3: 1棟 →R5: 3棟 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定的な生産体制の確保 ・新商品開発及び販路開拓
キジ肉消費向上	<ul style="list-style-type: none"> ・いの町本川地区と合同で「土佐のきじ祭り」を開催 (R2~) ・高知市内で開催する「ゆすはらフェア」への出店 (R4~) ・「ゆすはらグルメウィーク」にて、県外有名シェフによるメニュー開発 (R4) ・パンフレット、ユニホームなどの販促資材の製作 (R4) ・ECサイトのリニューアル (R5) 	<ul style="list-style-type: none"> ・営業力の強化 ・認知度及びブランド力の向上

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
販売額	1,160万円 (R4)	1,341万円			2,655.4万円

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>生産体制の確立と生産羽数の向上に向けた取り組み</p> <p>■(株)四万川</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規生産者の確保、育成 ・HACCPに沿った衛生管理 ・ふ化率・育成率向上のため他産地と連携した生産体制の強化 ・デジタル技術、設備の導入などによる生産羽数の増加 ・家畜保健所からの指導に基づいた感染症対策 <p>□県(地域本部、家畜保健衛生所)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種支援制度の情報共有、関係機関への橋渡し ・ふ化率及び育成率向上、感染症対策にかかる指導、情報提供 		<p>新規生産者の確保と育成</p>		
		<p>ふ化率・育成率向上に向けた現状把握と対策(ふ化機導入等)</p>		
		<p>デジタル技術の導入</p>		
		<p>衛生管理、感染症対策にかかる指導</p>		
<p>販路の開拓・拡大</p> <p>■(株)四万川</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県外飲食店との取引強化に向けた、(一社)高知県地産外商公社等と連携した営業活動 ・県外商談会等への出展と商品のブラッシュアップ ・見本市、高級飲食店、高級旅館など県外市場への販路開拓 ・<u>新商品の開発</u> <p>□県(地域本部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種支援制度の情報共有、関係機関への橋渡し、伴走支援 				
		<p>県外への営業活動</p>		
		<p>商品のブラッシュアップ</p>		
<p>キジ肉認知度向上・消費拡大に向けた取り組み</p> <p>■(株)四万川</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いの町本川地区と連携した「土佐のきじ祭り」の開催 ・愛媛県鬼北町、いの町本川地区との連携の検討 <p>□県(地域本部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種支援制度の情報共有、関係機関への橋渡し 				
		<p>「土佐のきじ祭り」開催</p>		
		<p>3者連携による取り組みと関係強化</p>		

高幡地域アクションプラン

分野 農業

AP名 (実施地域)	No.2 四万十流域資源のブランド力を活かした地域の活性化 (四万十町)
実施主体	◎(株)四万十ドラマ
APへの位置づけ	H22.4月
事業概要	四万十川流域の資源を活かして流域の生産者と加工事業者が連携して、6次産業化の取り組みを拡大することで、農業者の所得向上と雇用の創出を図り、中山間地域の活性化を目指す。

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
生産量の増大	<ul style="list-style-type: none"> 苗木の補助などにより、栗の新改植を推進 (H22~) 担い手として「しまんと新一次産業(株)」設立 (H24) 栗技術チーム会での低樹高化に向けたせん定技術の普及、特選栗認定の推進 (H24~) 人参芋の栽培を推進する「四万十の芋プロジェクト協議会」を設立 (R3) 茶のオーガニック化を目指した産地づくり (R5~6) →産振アドバイザー制度の活用 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 四万十ドラマ雇用者数 (加工部) H30: 8人 →R5: 20人 新商品開発 R3: 8品 R4: 2品 R5: 3品 加工品売上 H30: 9,900万円 →R5: 3.9億円
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> 農山漁村振興交付金を活用した研修プログラム開発、研修プログラムモニターツアーの実施 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢化等による生産量の減少 新商品の開発とブランド化による販路の拡大
施設機械整備とブランド化	<ul style="list-style-type: none"> (株)四万十ドラマがカフェを併設した加工場「おちゃくりカフェ」を整備 (H25) →産振補助金の活用 しまんと新一次産業(株)ペースト工場が完成 (H29) →産地パワーアップ事業の活用 しまんと新一次産業(株)に高品質ペースト機械導入 (R元) →次世代型ハウス・農業クラスター促進事業の活用 (株)四万十ドラマ新工場への加工機械整備 (R3) →R2 (R3 繰越) 新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金の活用 商品増産体制の整備、営業体制の強化 (R4~5) →産振アドバイザー制度の活用 直営販売店 (高知市) のオープン (R6.3) 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢化等による生産量の減少 新商品の開発とブランド化による販路の拡大

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1) 栗集荷量 (大正、十和、西土佐)	26.6t (R4)	18.1t			30t
(2) 芋生産量 (四万十の芋プロジェクト協議会)	44t (R4)	43.5t			70t
(3) (株)四万十ドラマ 新規雇用者数	-	2人			10人 (R6~9 累計)
(4) (株)四万十ドラマ 加工品販売額	3.4億円 (R4)	3.8億円			5億円

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>生産の強化</p> <p>■(株)四万十ドラマ</p> <ul style="list-style-type: none"> しまんと流域農業 organic プロジェクトの推進 (地域の農業法人との連携による栗・芋等の栽培拡大) しまんと地栗植樹プロジェクト (農業部門の立ち上げ) <p>□県 (高南農業改良普及所等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 栗: 剪定講習会、目慣らし会開催支援 芋: 病害虫対策の周知、有機農業に関する情報提供 				
<p>地域外との交流促進</p> <p>■(株)四万十ドラマ</p> <ul style="list-style-type: none"> 四万十の人々の日々の営みから学ぶ『しまんと分校』(R7 開校)と連携した研修プログラムの実施 <p>□県 (地域本部等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修プログラムの実施、運営に関するアドバイザーの活用提案 				
<p>加工流通・販売拡大</p> <p>■(株)四万十ドラマ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産拡大に向けた施設整備や設備の検討 (貯蔵庫、冷凍庫、農作物物流通センター等) 生産性の向上(効率的な生産に向けた機械導入の検討) 営業体制の強化(商品提案の磨き上げやアプローチ方法の分析) 自社 EC 販売強化 (EC サイトの改良) 地域資源を活かした新商品開発 <p>□県 (地域本部等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 産振補助金の紹介、研修会や支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 				

高幡地域アクションプラン

分野 農業

AP名 (実施地域)	No.2 四万十流域資源のブランド力を活かした地域の活性化 (四万十町)
実施主体	◎(株)四万十ドラマ
APへの位置づけ	H22.4月
事業概要	四万十川流域の資源を活かして流域の生産者と加工事業者が連携して、6次産業化の取り組みを拡大することで、農業者の所得向上と雇用の創出を図り、中山間地域の活性化を目指す。

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
生産量の増大	<ul style="list-style-type: none"> 苗木の補助などにより、栗の新改植を推進 (H22~) 担い手として「しまんと新一次産業(株)」設立 (H24) 栗技術チーム会での低樹高化に向けたせん定技術の普及、特選栗認定の推進 (H24~) 人参芋の栽培を推進する「四万十の芋プロジェクト協議会」を設立 (R3) 茶のオーガニック化を目指した産地づくり (R5~6) →産振アドバイザー制度の活用 <u>しまんと地栗の栽培を推進する「しまんと地栗協議会」を設立(R7)</u> 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 四万十ドラマ雇用者数 (加工部) H30: 8人 → <u>R6: 19人</u> 加工品売上 H30: 9,900万円 → <u>R6: 3.8億円</u>
施設機械整備とブランド化	<ul style="list-style-type: none"> (株)四万十ドラマがカフェを併設した加工場「おちゃくりカフェ」を整備 (H25) →産振補助金の活用 しまんと新一次産業(株)ペースト工場が完成 (H29) →産地パワーアップ事業の活用 しまんと新一次産業(株)に高品質ペースト機械導入 (R元) →次世代型ハウス・農業クラスター促進事業の活用 (株)四万十ドラマ新工場への加工機械整備 (R3) →R2 (R3 繰越) 新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金の活用 商品増産体制の整備、営業体制の強化 (R4~5) →産振アドバイザー制度の活用 直営販売店 (高知市) のオープン (R6.3) <u>ECサイトの改善 (R7) →産振アドバイザー制度の活用</u> <u>直営販売店 (阪神百貨店梅田本店) のオープン (R7.10)</u> →商品開発および製造体制の強化に産振アドバイザー制度の活用 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢化等による生産量の減少 新商品の開発とブランド化による販路の拡大 <u>地域商社機能の強化</u>

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1) 栗集荷量 (大正、十和、西土佐)	26.6t (R4)	18.1t			30t
(2) 芋生産量 (四万十の芋プロジェクト協議会)	44t (R4)	43.5t			70t
(3) (株)四万十ドラマ 新規雇用者数	-	2人			10人 (R6~9 累計)
(4) (株)四万十ドラマ 加工品販売額	3.4億円 (R4)	3.8億円			5億円

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>生産の強化</p> <p>■(株)四万十ドラマ</p> <ul style="list-style-type: none"> しまんと流域農業 organic プロジェクトの推進 (農業部門立ち上げ、地域の農業法人との連携による栗・芋等の栽培拡大) <u>農作物の保管庫等の導入検討</u> <p>□県 (高南農業改良普及所等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 栗: 剪定講習会、目慣らし会開催支援 芋: 病害虫対策の周知、有機農業に関する情報提供 				
<p>加工流通・販売拡大</p> <p>■(株)四万十ドラマ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産拡大に向けた施設整備や設備の検討 (貯蔵庫、冷凍庫、農作物流通センター等) 営業体制の強化 (ECサイトの改良、販売エリアの拡大) <u>農作物の集約・販売による地域のPR (地域商社の機能強化)</u> 地域資源を活かした新商品開発 <u>PDCAサイクルによる新店舗の売上向上</u> <p>□県 (地域本部等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 産振補助金の紹介、研修会や支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 				

高幡地域アクションプラン

分野 農業

AP名 (実施地域)	No.3 四万十町畑作振興プロジェクト (四万十町)
実施主体	◎四万十野菜(同)、(株)ハマヤ
APへの位置づけ	H28.4月
事業概要	有機栽培や特別栽培等の野菜・米を栽培する農業者と連携して、外商活動等を強化し野菜の産地化を進める。また、地域の食材を使用した加工品の製造・販売により地域の農業者の所得向上を目指す。

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
農業者連携の拡大・強化	<ul style="list-style-type: none"> 「四万十有機部会」を中心とした勉強会の実施 (H28~30) 県外卸売業者の招へい (継続) 地域野菜ブランドとして「しまんと畑」を旗揚げ (H29~) サトイモ、ショウガの出荷調整機械の導入 (H30) J-GAP 認証の取得 (R2~R5) 四万十町での就農希望者の雇用 (R2~) 現地検討会「有機生姜圃場クリニック」の実施 (R2~) 有機 JAS 認証の取得 (R3~) 有機水稲の試験栽培 (R5~) 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 四万十野菜(同)への出荷者の増加 H28: 4名 → R5: 26名 新商品の開発 R2~R5: 13品 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 有機農業や特別栽培を目指す人材の確保 需要に応じた生産力の強化 野菜・米及び加工品の販路開拓
6次産業化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ショウガ等を使用した新商品開発 (R2) →6次産業化セミナー(実践コース)の活用 加工事業の事業戦略・経営計画策定→産振補助金の活用(R3) 加工商品の磨き上げ (R3) →6次産業化セミナー(アップグレードコース)の活用 商品化の取り組み (R3~R4) →産振アドバイザー制度の活用 県版 HACCP 認証取得に向けた研修参加 (R3~) 加工施設の整備 (R4) →新事業チャレンジ支援事業費補助金の活用 農林水産省 六次産業化・地産地消費に基づく総合化事業計画の認定 (R4~) 農山漁村発イノベーション推進事業による専門家派遣事業の活用 (R5~) 機能性食品表示取得の検討 (R6) →産振補助金の活用 	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)四万十野菜(同)売上高	1.28 億円 (R5)				1.36 億円
(2)四万十野菜(同)加工品売上高	79 千円 (R5)				1,095 千円

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>農業者連携の拡大・強化</p> <p>■四万十野菜(同)</p> <ul style="list-style-type: none"> 栽培技術現地検討会(圃場クリニック)・勉強会の実施、新規有機農業者との連携、就農希望者の研修受入れ 有機栽培における水稲と野菜による輪作の実践、有機米専用施設・機械導入の検討 <p>□県(高南農業改良普及所等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 栽培技術検討会の開催支援、栽培技術指導、実証ほの設置 有機農業及び研修生受入れ・独立等に関する情報提供 <p>連携強化に伴う卸事業の拡大</p> <p>■四万十野菜(同)、(株)ハマヤ</p> <ul style="list-style-type: none"> 有機農産物等にかかる外商活動の強化、輸送システムの検討 <p>□県(高南農業改良普及所、地域本部等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 商談会等の情報提供 				
	現地検討会・勉強会の開催			
	水稲試験栽培	有機農業者連携による生産・販売		
			有機農産物等の外商活動	
<p>加工商品の販売拡大</p> <p>■四万十野菜(同)</p> <ul style="list-style-type: none"> 商談会等への参加による販売拡大 輸出を視野に入れた体制整備(食品安全規格(JFS-C)の取得等) <p>□県(地域本部等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 商談会等の情報提供 <p>加工商品の拡充</p> <p>■四万十野菜(同)</p> <ul style="list-style-type: none"> マーケットインによる新商品開発と既存商品のブラッシュアップ <p>□県(地域本部等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 商品開発に関する産振アドバイザー制度活用の提案、各種支援制度の情報提供 				
			営業活動の強化	
			JFS-B取得	JFS-C取得
				新商品の開発と磨き上げ

高幡地域アクションプラン

分野 農業

AP名 (実施地域)	No.3 四万十町畑作振興プロジェクト (四万十町)
実施主体	◎四万十野菜(同)、(株)ハマヤ
APへの位置づけ	H28.4月
事業概要	有機栽培や特別栽培等の野菜・米を栽培する農業者と連携して、外商活動等を強化し野菜の産地化を進める。また、地域の食材を使用した加工品の製造・販売により地域の農業者の所得向上を目指す。

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
農業者連携の拡大・強化	<ul style="list-style-type: none"> 「四万十有機部会」を中心とした勉強会の実施 (H28~30) 県外卸売業者の招へい (継続) 地域野菜ブランドとして「しまんと畑」を旗揚げ (H29~) サトイモ、ショウガの出荷調整機械の導入 (H30) J-GAP 認証の取得 (R2~R5) 四万十町での就農希望者の雇用 (R2~) 現地検討会「有機生姜圃場クリニック」の実施 (R2~) 有機 JAS 認証の取得 (R3~) 有機水稲の試験栽培 (R5~) 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 四万十野菜(同)への出荷者の増加 H28 : 4名 → R6 : 27名 新商品の開発 R2~R6 : 16品
6次産業化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ショウガ等を使用した新商品開発 (R2) →6次産業化セミナー(実践コース)の活用 加工事業の事業戦略・経営計画策定→産振補助金の活用(R3) 加工商品の磨き上げ (R3) →6次産業化セミナー(アップグレードコース)の活用 商品化の取り組み (R3~R4) →産振アドバイザー制度の活用 県版 HACCP 認証取得に向けた研修参加 (R3~) 加工施設の整備 (R4) →新事業チャレンジ支援事業費補助金の活用 農林水産省 六次産業化・地産地消費に基づく総合化事業計画の認定 (R4~) 農山漁村発イノベーション推進事業による専門家派遣事業の活用 (R5~) 機能性食品表示取得の検討 (R6) →産振補助金の活用 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 有機農業や特別栽培を目指す人材の確保 需要に応じた生産力の強化(機械・設備の整備) 野菜・米及び加工品の販路開拓

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)四万十野菜(同)売上高	1.28 億円 (R5)	1.33 億円			1.36 億円
(2)四万十野菜(同)加工品売上高	79 千円 (R5)	576 千円			1,095 千円

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>農業者連携の拡大・強化</p> <p>■四万十野菜(同)</p> <ul style="list-style-type: none"> 栽培技術現地検討会(圃場クリニック)・勉強会の実施、新規有機農業者との連携、就農希望者の研修受入れ 有機栽培における水稲と野菜による輪作の実践、有機米専用施設・機械導入の検討 <p>□県(高南農業改良普及所等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 栽培技術検討会の開催支援、栽培技術指導、実証ほの設置 有機農業及び研修生受入れ・独立等に関する情報提供 <p>連携強化に伴う卸事業の拡大</p> <p>■四万十野菜(同)、(株)ハマヤ</p> <ul style="list-style-type: none"> 有機農産物等にかかる外商活動の強化、有機米の輸出 <p>□県(高南農業改良普及所、地域本部等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 商談会等の情報提供 				
<p>加工商品の販売拡大</p> <p>■四万十野菜(同)</p> <ul style="list-style-type: none"> 商談会等への参加による販売拡大 <p>□県(地域本部等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 商談会等の情報提供 <p>加工商品の拡充</p> <p>■四万十野菜(同)</p> <ul style="list-style-type: none"> マーケットインによる新商品開発と既存商品のブラッシュアップ <p>□県(地域本部等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 商品開発に関する産振アドバイザー制度活用の提案、各種支援制度の情報提供 				

高幡地域アクションプラン

分野 農業

AP名 (実施地域)	No.4 四万十ポークのブランド化の推進 (四万十町)
実施主体	◎ 四万十ポークブランド推進協議会、(農)平野協同畜産、(有)渡辺畜産、(株)山中畜産、(農)四国デュロックファーム
APへの位置づけ	H27.4月
事業概要	安心・安全な豚肉を安定的に消費者に提供できる体制のもと、関係機関が連携して一体的な取り組みを進め、四万十町産豚肉のブランド価値と収益性の向上を目指す。

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
ブランド化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・四万十ポークブランド推進協議会設立 (H26) ・四万十町養豚クラスター計画とブランド化の方針を策定 (H26) ・ブランド化に向けた関係者のワークショップ (R元) →産振アドバイザー制度の活用 ・四万十ポークのロゴマーク決定 (R2) ・外商専用ウェブサイトの開設及び販促ツールの作成 (R3) ・パンフレット作成、地域イベントへの出店 (R5) 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(農)四国デュロックファーム加工品売上高 H30：9,202万円→R5：1.8億円 ・雇用の創出 加工直販所 ((農)四国デュロックファーム) H27：1人→R5：9人 養豚農家 ((農)平野協同畜産) H27：0人→R5：1人
商品開発と販路開拓	<ul style="list-style-type: none"> ・(農)四国デュロックファーム直営の加工所及び直販所を整備 (H27) →産振補助金の活用 ・(農)平野協同畜産直営の加工所及び直販所を整備 (R4) →産振アドバイザー制度の活用 ・(農)平野協同畜産による新商品開発 (R5) →商品づくりワーキング (食のプラットフォーム) の活用 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十ポークの認知度向上 ・伝染性疾病の低減
生産基盤の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・(農)平野協同畜産の豚舎を整備 (H28～29) →産振補助金の活用 高知県初の農場 HACCP 推進農場に認定 (H28) 四国初の養豚農場 HACCP 認証取得 (R元) ・(農)四国デュロックファームの豚舎を整備 (R3～4) →大規模畜産施設整備事業費補助金 (県)、畜産・酪農収益力強化総合対策基金等事業補助金 (国) の活用 ・(有)渡辺畜産の豚舎を整備 (R4～5) →大規模畜産施設整備事業費補助金 (県)、畜産・酪農収益力強化総合対策基金等事業補助金 (国) の活用 ・(株)山中畜産の豚舎を整備 (R6～7) →産振補助金 (県)、畜産・酪農収益力強化総合対策基金等事業補助金 (国) の活用 	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1) 四万十ポーク売上高※1	10.4億円 (R4)	13.6億円			15.2億円
(2) 年間出荷頭数 [うち(株)山中畜産の年間出荷頭数]	25,332頭 [1,783頭] (R4)	28,082頭 [568頭]			38,696頭 [4,514頭]
(3) 四万十ポーク取扱店舗数※2	2軒 (R4)	34軒			40軒 (R6～9累計)

※1 JA 高知県の取扱高 ※2 取扱店のうち、PRに協力いただく店舗数

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>四万十ポークのPR</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 四万十ポークブランド推進協議会 <ul style="list-style-type: none"> ・イベント参加やPRキャンペーン等による四万十ポークの認知度の向上 □ 県 (西部家畜保健衛生所、地域本部等) <ul style="list-style-type: none"> ・各種支援制度の情報提供、関係機関との橋渡し <p>地域団体商標の取得</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 四万十ポークブランド推進協議会 <ul style="list-style-type: none"> ・地域団体商標取得に向けた体制等の検討及び課題整理 □ 県 (西部家畜保健衛生所、地域本部等) <ul style="list-style-type: none"> ・ブランド化促進のための産振アドバイザー制度の活用を提案、各種支援制度の情報提供 				
<p>商品開発と販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 四万十ポークブランド推進協議会 <ul style="list-style-type: none"> ・新商品の開発、催事・商談会等への参加による販路拡大 □ 県 (地域本部等) <ul style="list-style-type: none"> ・新商品開発に向けた産振アドバイザー制度の活用を提案、各種支援制度の情報提供 				
<p>生産基盤の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ (株)山中畜産 <ul style="list-style-type: none"> ・豚舎整備 □ 県 (西部家畜保健衛生所等) <ul style="list-style-type: none"> ・防疫衛生に関するアドバイス、各種補助事業の紹介 				
<p>【用語】・農場 HACCP：農場の衛生管理を向上させるため、農場に HACCP の考え方を取り入れ、危害要因を防止するための管理ポイントを設定、継続的に監視・記録を行うことで、農場段階で危害要因をコントロールする手法のこと。畜産分野においては、家畜の疾病等の要因分析を行い、排除または管理する方策の構築、家畜の健康維持の確保、家畜、畜産物の安全性の確保と生産性の向上を可能とする。</p>				

高幡地域アクションプラン

分野 農業

AP名 (実施地域)	No.4 四万十ポークのブランド化の推進 (四万十町)
実施主体	◎四万十ポークブランド推進協議会、(農)平野協同畜産、(有)渡辺畜産、(株)山中畜産、(農)四国デュロックファーム
APへの位置づけ	H27.4月
事業概要	安心・安全な豚肉を安定的に消費者に提供できる体制のもと、関係機関が連携して一体的な取り組みを進め、四万十町産豚肉のブランド価値と収益性の向上を目指す。

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
ブランド化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・四万十ポークブランド推進協議会設立 (H26) ・四万十町養豚クラスター計画とブランド化の方針を策定 (H26) ・ブランド化に向けた関係者のワークショップ (R元) →産振アドバイザー制度の活用 ・四万十ポークのロゴマーク決定 (R2) ・外商専用ウェブサイトの開設及び販促ツールの作成 (R3) ・パンフレット作成、地域イベントへの出店 (R5) 	<p>【成果】 <u>四万十ポーク認知度向上</u> <u>84%(R6)</u> <u>→ 91%(R7)</u> <u>(イベント時のアンケートより)</u></p> <p>【課題】 ・四万十ポークの認知度のさらなる向上 (イベント参加や食育活動等) ・伝染性疾病の低減</p>
商品開発と販路開拓	<ul style="list-style-type: none"> ・(農)四国デュロックファーム直営の加工所及び直販所を整備 (H27) →産振補助金の活用 ・(農)平野協同畜産直営の加工所及び直販所を整備 (R4) →産振アドバイザー制度の活用 ・(農)平野協同畜産による新商品開発 (R5) →商品づくりワーキング (食のプラットフォーム) の活用 	
生産基盤の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・(農)平野協同畜産の豚舎を整備 (H28~29) →産振補助金の活用 高知県初の農場 HACCP 推進農場に認定 (H28) 四国初の養豚農場 HACCP 認証取得 (R元) ・(農)四国デュロックファームの豚舎を整備 (R3~4) →大規模畜産施設整備事業費補助金 (県)、畜産・酪農収益力強化総合対策基金等事業補助金 (国) の活用 ・(有)渡辺畜産の豚舎を整備 (R4~5) →大規模畜産施設整備事業費補助金 (県)、畜産・酪農収益力強化総合対策基金等事業補助金 (国) の活用 ・(株)山中畜産の豚舎を整備 (R6~7) →産振補助金 (県)、畜産・酪農収益力強化総合対策基金等事業補助金 (国) の活用 	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1) 四万十ポーク売上高 ^{※1}	10.4 億円 (R4)	13.6 億円			15.2 億円
(2) 年間出荷頭数 [うち(株)山中畜産の年間出荷頭数]	25,332 頭 [1,783 頭] (R4)	28,082 頭 [568 頭]			38,696 頭 [4,514 頭]
(3) 四万十ポーク取扱店舗数 ^{※2}	2 軒 (R4)	34 軒			40 軒 (R6~9 累計)

※1 JA 高知県の取扱高 ※2 取扱店のうち、PR に協力いただく店舗数

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
四万十ポークの PR ■四万十ポークブランド推進協議会 ・イベント参加や PR キャンペーン等による四万十ポークの認知度の向上 □県 (西部家畜保健衛生所、地域本部等) ・各種支援制度の情報提供、関係機関との橋渡し 地域団体商標の取得 ■四万十ポークブランド推進協議会 ・地域団体商標取得に向けた体制等の検討及び課題整理 □県 (西部家畜保健衛生所、地域本部等) ・ブランド化促進のための産振アドバイザー制度の活用を提案、各種支援制度の情報提供				
		四万十ポークの PR 活動		
		勉強会開催等による課題整理	食育を通じた PR	
商品開発と販路開拓 ■四万十ポークブランド推進協議会 ・新商品の開発、催事・商談会等への参加による販路拡大 □県 (地域本部等) ・新商品開発に向けた産振アドバイザー制度の活用を提案、各種支援制度の情報提供				
		商品開発と販路開拓		
生産基盤の強化 ■(株)山中畜産 ・豚舎整備 □県 (西部家畜保健衛生所等) ・防疫衛生に関するアドバイス、各種補助事業の紹介				
		施設整備	新施設での飼育	
【用語】・農場 HACCP：農場の衛生管理を向上させるため、農場に HACCP の考え方を取り入れ、危害要因を防止するための管理ポイントを設定、継続的に監視・記録を行うことで、農場段階で危害要因をコントロールする手法のこと。畜産分野においては、家畜の疾病等の要因分析を行い、排除または管理する方策の構築、家畜の健康維持の確保、家畜、畜産物の安全性の確保と生産性の向上を可能とする。				

高幡地域アクションプラン

	分野	林業
AP名 (実施地域)	No.5 梶原 100年の森林・人づくりプロジェクト ～森と水の文化を紡ぐ～ (梶原町)	
実施主体	◎梶原町、梶原町森林組合、ゆすはらペレット(株)、ゆすはらエネルギー(株)、(株)KIREcub	
APへの位置づけ	H21.4月	
事業概要	<p>梶原町の根幹をなす『森林と水の文化』は、森林と水によって形成されてきた「産業の発展」と、森林と水に留意しながらすすめられる「自然環境の保全」・「生活環境の整備」、心豊かな町民の生活の中から生まれる「人・食・自然・伝統・文化」である。</p> <p>この伝統を将来にわたって生かしながら、新たな『森林と水の文化』を形成するため、森林の有する機能の高度発揮に取り組み、地域内経済の循環、林業経営のイノベーション、地域人材を育む力を醸成し、町有林の伐採から再生林の実現、再生可能エネルギーの地産地消化に取り組み。</p>	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
森林と関わる新たな人づくり	<p>◆環境先進企業との協働</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働の森づくり協定を締結、森林整備と交流活動、担い手の育成 <p>◆次代を担う職業人の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林業ミッションの地域おこし協力隊の導入 (R3～) 	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林組合原木取扱量 H30: 15,704 m³ →R5: 16,500 m³ ・FSC 認証材の販売量 H30: 998 m³ →R5: 900 m³ ・環境先進企業との森林づくり協定数 H30: 5社 → R5: 8社 ・木質ペレット生産量 H30: 1,276t →R5: 1,400t ・ReMORI 設立 (R2) ・CoMORI 設立 (R2) ・KIREcub 設立 (R5) ・梶原森林づくり大学構想 (R3) ・木工品開発: 6商品 (R6)
森林資源の循環利用	<p>◆エネルギーの地産地消</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木質ペレット工場の施設整備 おが粉製造機の導入 (H24) →産振補助金を活用、粉砕機(H30)、燃焼灰袋詰め装置(R3) <p>◆森林資源の再生産</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分取造林の競売による主伐の推進と木材の安定供給 <p>◆木材の付加価値創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FSC 認証材製材品の販売強化 <p>※林業振興計画の方針策定→産振アドバイザー制度の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木工品等の開発(R6) 	<p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林資源の活用促進と伐採後の再生林 ・木質バイオマス発電所新設に伴う生産体制の拡充及び原木供給 ・森林を通じた関係人口の拡大と林業担い手確保
交流人口の拡大	<p>◆滞在型の観光地域づくりの推進 (太郎川公園)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きつつき学習館の改修 (R4) →観光振興推進総合支援事業費補助金 (観光資源磨き上げ事業) の活用 ・キャンプ場の整備、多言語対応サインの設置 (R4) →観光施設等緊急整備事業費補助金の活用 ・湿性植物園の整備(R4) →博覧会受入環境等整備事業費補助金の活用 ・太郎川公園リニューアルオープン (R5) ・森林の文化シンポジウム、森林フェスティバル等イベント開催 	<p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林を通じた関係人口の拡大と林業担い手確保

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)林業の新規就業者数	6人 (R4)				16人 (R6～9累計)
(2)町実施の再生林面積	2.08ha (R4)				30ha
(3)森林由来の新商品開発 (もの・サービス)	-				4品 (R6～9累計)
(4)木質ペレット生産量	1,446 t (R4)				2,300 t
(5)太郎川公園の利用者数	8,083人 (R4)				30,000人

第5期計画における行程表					
事業概要	R6	R7	R8	R9	
<p>林業担い手の確保</p> <p>■梶原町、梶原町森林組合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし協力隊等 (民間事業体) の確保・育成 ・地域おこし協力隊等 (民間事業体) の育成体制の構築 ・退任後の収入確保に向けた森林サービス産業創出の促進 ・半林半 X といった新たな働き方の提案 ・町有林 (分取林含む) を主体とした安定的な事業量の確保 <p>□林業事務所、地域本部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援制度に関する情報提供、現場指導、取組伴走支援、進捗管理等 					<p>地域おこし協力隊等の確保・育成</p> <p>指導体制の検討 → 指導体制の運用</p> <p>マーケティング、試行、起業支援</p> <p>町有林 (分取林) の計画的発注</p>
<p>環境先進企業との協働の高度化</p> <p>■梶原町、梶原町森林組合、ゆすはらペレット(株)、ゆすはらエネルギー(株)、(株)KIREcub</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境先進企業の知見と梶原町の資源を活用した森林由来の新商品開発 ・木質ペレットの増産 (発電施設の新設、木質ペレット製造施設の増設) ・環境先進企業に対する「梶原町の森林と水の文化」の理解促進 (高校生によるプレゼン、社会見学) ・環境先進企業・高校生・地域おこし協力隊の協働事業の実施 <p>□林業事務所、地域本部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援制度に関する情報提供、現場指導、取組伴走支援、進捗管理等 					<p>マーケティング、試作、販促PR活動</p> <p>施設整備 → 町内施設へ電力と熱の供給</p> <p>定期的な交流会の実施</p>
<p>滞在型の観光地域づくりの推進 (太郎川公園を活用した関係人口の創出)</p> <p>■梶原町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次世代への森林環境教育の実施 ・体験型イベントやシンポジウムの開催 ・観光協会など関係機関との連携強化 <p>□地域本部、林業事務所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援制度に関する情報提供、取組伴走支援、進捗管理等 					<p>太郎川公園の環境整備や機能の充実</p> <p>森のようちえん・梶原高校PT</p> <p>森林フェスティバル等イベントの開催</p> <p>森林セラピーの推進</p> <p>森林の体験プランの造成、周遊促進</p>

AP名 (実施地域)	No.5 梶原 100年の森林・人づくりプロジェクト ～森と水の文化を紡ぐ～ (梶原町)
実施主体	◎梶原町、梶原町森林組合、ゆすはらペレット(株)、ゆすはらエネルギー(株)、(株)KIRecub
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	梶原町の根幹をなす『森林と水の文化』は、森林と水によって形成されてきた「産業の発展」と、森林と水に留意しながらすすめられる「自然環境の保全」・「生活環境の整備」、心豊かな町民の生活の中から生まれる「人・食・自然・伝統・文化」である。 この伝統を将来にわたって生かしながら、新たな『森林と水の文化』を形成するため、森林の有する機能の高度発揮に取り組み、地域内経済の循環、林業経営のイノベーション、地域人材を育む力を醸成し、町有林の伐採から再生林の実現、再生可能エネルギーの地産地消費、 森林とのふれあいを通じた交流人口の拡大 に取り組み。

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
森林と関わる新たな人づくり	<p>◆環境先進企業との協働</p> <ul style="list-style-type: none"> 協働の森づくり協定を締結、森林整備と交流活動、担い手の育成 <p>◆次代を担う職業人の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 林業ミッションの地域おこし協力隊の導入 (R3～) 	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)KIRecub 設立 (R5) ・梶原森林づくり大学構想 (R3) ・木工品開発：6商品 (R6)
森林資源の循環利用	<p>◆エネルギーの地産地消</p> <ul style="list-style-type: none"> 木質ペレット工場の施設整備 おが粉製造機の導入 (H24) →産振補助金を活用、粉砕機(H30)、燃焼灰袋詰め装置(R3) <p>◆森林資源の再生産</p> <ul style="list-style-type: none"> 分取造林の競売による主伐の推進と木材の安定供給 <p>◆木材の付加価値創造</p> <ul style="list-style-type: none"> 林業振興計画の方針策定→産振アドバイザー制度の活用 木工品等の開発(R6) 	<p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林資源の活用促進と伐採後の再生林 ・木質バイオマス発電所新設に伴う生産体制の拡充及び原木供給 ・森林を通じた関係人口の拡大と林業担い手確保
交流人口の拡大	<p>◆滞在型の観光地域づくりの推進 (太郎川公園)</p> <ul style="list-style-type: none"> きつつき学習館の改修 (R4) →観光振興推進総合支援事業費補助金 (観光資源磨き上げ事業) の活用 キャンプ場の整備、多言語対応サインの設置 (R4) →観光施設等緊急整備事業費補助金の活用 湿性植物園の整備(R4) →博覧会受入環境等整備事業費補助金の活用 太郎川公園リニューアルオープン (R5) 森林の文化シンポジウム、森林フェスティバル等イベント開催 	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)林業の新規就業者数	6人 (R4)	0人			16人 (R6～9累計)
(2)町実施の再生林面積	2.08ha (R4)	10.42ha			30ha
(3)森林由来の新商品開発 (もの・サービス)	-	6品			4品 (R6～9累計)
(4)木質ペレット生産量	1,446 t (R4)	813 t			2,300 t
(5)太郎川公園の利用者数	8,083人 (R4)	12,688人			30,000人

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>林業担い手の確保</p> <p>■梶原町、梶原町森林組合</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域おこし協力隊等 (民間事業体) の確保・育成 地域おこし協力隊等 (民間事業体) の育成体制の構築 退任後の収入確保に向けた森林サービス産業創出の促進 半林半Xといった新たな働き方の提案 町有林 (分取林含む) を主体とした安定的な事業量の確保 <p>□林業事務所、地域本部</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援制度に関する情報提供、現場指導、取組伴走支援、進捗管理等 		地域おこし協力隊等の確保・育成	指導体制の検討	指導体制の運用
<p>環境先進企業との協働の高度化</p> <p>■梶原町、梶原町森林組合、ゆすはらペレット(株)、ゆすはらエネルギー(株)、(株)KIRecub</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境先進企業の知見と梶原町の資源を活用した森林由来の新商品開発 木質ペレットの増産 (発電施設の新設、木質ペレット製造施設の増設) 環境先進企業に対する「梶原町の森林と水の文化」の理解促進 (高校生によるプレゼン、社会見学) 環境先進企業・高校生・地域おこし協力隊の協働事業の実施 <p>□林業事務所、地域本部</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援制度に関する情報提供、現場指導、取組伴走支援、進捗管理等 		マーケティング、試作、販促PR活動	施設整備	町内施設へ電力と熱の供給
<p>滞在型の観光地域づくりの推進 (太郎川公園を活用した関係人口の創出)</p> <p>■梶原町</p> <ul style="list-style-type: none"> 次世代への森林環境教育の実施 体験型イベントやシンポジウムの開催 観光協会など関係機関との連携強化 <p>□地域本部、林業事務所</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援制度に関する情報提供、取組伴走支援、進捗管理等 		定期的な交流会の実施		
		太郎川公園の環境整備や機能の充実		
		森のようちえん・梶原高校PT		
		森林フェスティバル等イベントの開催		
		森林セラピーの推進		
		森林の体験プランの造成、周遊促進		

高幡地域アクションプラン

		分野	商工業
AP名 (実施地域)	No.8 「鰹乃國水産」ブランドの創出・販売促進 (中土佐町)		
実施主体	◎企画・どく礼もん企業組合、中土佐町		
APへの位置づけ	H21.4月		
事業概要	中土佐町の特産品であるカツオについて、冷凍カツオの価値を高め供給体制を構築し販売拡大することで、地元のカツオの一本釣りの文化や風土を含めたブランド化を図り漁業の活性化を目指す。		

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
安定的な生産体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 水産加工場の整備 (H25～26) →産振補助金の活用 水揚げ時期に左右されない安定供給のための冷凍商品の開発・販売 (H29～) マイナス 50℃で保存可能な冷凍庫の整備 (R4) →中土佐町支援制度の活用 ※実施主体の変更 H27～29 中土佐町地域振興公社 H30～ (株)SEA プロジェクト R元～ 企画・どく礼もん企業組合 タタキ製品製造の効率化に向けて真空包装機導入 (R6) 地域おこし協力隊(団体委託型) 2名の雇用による体制強化 (R7) 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高鮮度ブランドの確立 →「びんび鰹のたたき」、 「びんびめじか」商品化 商品開発数 H27～R6 : 5商品 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 安定的な生産体制の構築 (仕入れ、製造、販売) 製造コストに見合う販売価格の検討 ECサイトの売上向上
販路拡大	<ul style="list-style-type: none"> 飲食店を対象にしたカツオのタタキ加工の産地視察受入 (R2～5) 中土佐町ふるさと納税業務の受託 (R2～4) ECサイトリニューアル (R2、R6) →動画・写真の追加、操作性向上 事業戦略、アクションプラン作成 (R3) →産振アドバイザー制度の活用 飲食店への中土佐町食材提供や共同イベント実施による新たな取引先の開拓 (R3～4) →中土佐町支援制度の活用 大正町市場と連携したイベント「大正町市場かつお祭」の企画・実施 (R4) 冷凍カツオの付加価値向上と EC サイトの新しい顧客創出の戦略づくり (R5)、パッケージ開発と販売促進 (R6) →産振アドバイザー制度の活用 県内外でのイベントでの冷凍カツオ PR (R5～) 県外催事等で二次元コード(HP・EC サイト・SNS)付きメッセージカードの配布開始 (R6) 	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
売上高	3,072万円 (R4)	4,991万円			5,900万円

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>安定的な生産体制の構築 (冷凍カツオ)</p> <p>■企画・どく礼もん企業組合</p> <ul style="list-style-type: none"> 冷凍カツオの製造のための人員確保 タタキ製品製造の効率化に向けた施設整備 (急速冷凍機) <p>□県 (地域本部)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の情報提供 	生産体制 見直し	人員 確保	冷凍タタキ等の 製造	
	試作 検討	設備 導入	新商品の製造	
<p>営業活動の強化</p> <p>■企画・どく礼もん企業組合</p> <ul style="list-style-type: none"> 冷凍カツオを中心とした商品の販路拡大 (首都圏・関西圏) (イベント出店、商談会参加、営業活動) 販売力強化に向けた EC サイト改修 動線分析、動画・写真の追加、操作性向上、カツオのタタキの新しいレシピ開発、食べ方提案など、消費者が購入しやすいサイトづくり ブランドイメージ構築に向けた情報の発信 カツオへのこだわり、他社との違い <p>□県 (地域本部)</p> <ul style="list-style-type: none"> EC サイト改修に向けて産振アドバイザー制度の活用を提案 		関西圏、首都圏を主とする イベント・商談会出展		
	サイト 改修	動線 分析	ECサイトの 随時見直し	
	ブランド サイト作成	継続的なブランド情報発信		

高幡地域アクションプラン

高幡地域アクションプラン		分野	商工業
AP名 (実施地域)	No.8 「鰹乃國水産」ブランドの創出・販売促進 (中土佐町)		
実施主体	◎企画・どく礼もん企業組合、中土佐町		
APへの位置づけ	H21.4月		
事業概要	中土佐町の特産品であるカツオについて、冷凍カツオの価値を高め供給体制を構築し販売拡大することで、地元のカツオの一本釣りの文化や風土を含めたブランド化を図り漁業の活性化を目指す。		

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
安定的な生産体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 水産加工場の整備 (H25～26) →産振補助金の活用 水揚げ時期に左右されない安定供給のための冷凍商品の開発・販売 (H29～) マイナス 50℃で保存可能な冷凍庫の整備 (R4) →中土佐町支援制度の活用 タタキ製品製造の効率化に向けて真空包装機・急速冷凍機の導入 (R6、R7) →中土佐町支援制度の活用 地域おこし協力隊(団体委託型) 2名の雇用による体制強化 (R7) 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高鮮度ブランドの確立 商品開発数 H27～R6 : 5商品
販路拡大	<ul style="list-style-type: none"> 高知家の魚応援の店に登録 (R元～) 飲食店を対象にしたカツオのタタキ加工の産地視察受入 (R2～5) 中土佐町ふるさと納税業務の受託 (R2～4) ECサイトリニューアル (R2、R6) 事業戦略、アクションプラン作成 (R3) →産振アドバイザー制度の活用 事業戦略の策定 (R5) →地産地消・外商課の制度活用 飲食店への中土佐町食材提供や共同イベント実施による新たな取引先の開拓 (R3～4) →中土佐町支援制度の活用 冷凍カツオの付加価値向上とECサイトの新しい顧客創出の戦略づくり (R5)、パッケージ開発と販売促進 (R6) →産振アドバイザー制度の活用 県内外でのイベントでの冷凍カツオPR (R5～) 県外催事等で二次元コード(HP・ECサイト・SNS)付きメッセージカードの配布開始 (R6～) 高知県水産物輸出促進協議会に入会 (R7～) 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自社ECサイトの売上の伸び悩み 価格に見合う付加価値のPR

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
売上高	3,072万円 (R4)	4,991万円			5,900万円

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>安定的な生産体制の構築 (冷凍カツオ)</p> <p>■企画・どく礼もん企業組合</p> <ul style="list-style-type: none"> 冷凍カツオの製造のための人員確保 タタキ製品製造の効率化に向けた施設整備 <p>□県 (地域本部)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の情報提供 	生産体制見直し	人員確保・設備導入	冷凍タタキ等の製造	
	試作検討		新商品の製造	
<p>販路拡大</p> <p>■企画・どく礼もん企業組合</p> <ul style="list-style-type: none"> 冷凍カツオを中心とした商品の販路拡大 (首都圏・関西圏) (イベント出店、商談会参加、営業活動) 販売力強化に向けたECサイト改修 動線分析、動画・写真の追加、操作性向上、カツオのタタキの新しいレシピ開発、食べ方提案など、消費者が購入しやすいサイトづくり ブランドイメージ構築に向けた情報の発信 カツオへのこだわり、他社との違い <p>□県 (地域本部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ECサイト改修に向けて産振アドバイザー制度の活用を提案 		関西圏、首都圏を主とするイベント・商談会出展		
	サイト改修	動線分析	ECサイトの随時見直し	
	ブランドサイト作成		継続的なブランド情報発信	

高幡地域アクションプラン

分野 商工業

AP名 (実施地域)	No.9 道の駅なかとさ SEAプロジェクト (中土佐町)
実施主体	◎(株)SEAプロジェクト、中土佐町
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	「道の駅なかとさ」を拠点に、中土佐町の伝統文化や人をはじめとする地域資源を有効に活用して、中土佐町の魅力向上や町全体の賑わいの創出を図り、所得向上及び雇用の創出など町全体に経済効果を波及させる。

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
賑わい創出への展開	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅整備 (H28)、オープン (H29) →産振補助金の活用 各種フェアや季節感のあるイベントの開催 (H29～) SNS やメディア等を活用した PR (H29～) 人材育成・魅力ある店づくり (R3) →産振アドバイザー制度の活用 ファストフードコーナーの集客力向上 (R5) →産振アドバイザー制度の活用 	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> 道の駅来場者数 H29.7月～R6.3月末: 194.9万人 外販による売上額 R6: 2,581千円 町内出荷者売上額 H29.7.6～R6.3月末: 695,503千円 新商品の開発 H29～R6: 12商品
周辺施設との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> フェリー客の中土佐町への誘客に向けた、道の駅「なかとさ」を拠点とする情報発信強化及び周遊促進社会実験の実施 (R2) 黒潮本陣との連携企画 (黒潮本陣 25周年企画と合わせた道の駅クーポン発行など) (R3) メジカの新子の情報共有等による誘客の促進 (R4～) 大正町市場事業者とのイベントの共催 (R4～) 商店街商品の外販 (R4～) 	<p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 中心商店街や町内施設との連携の強化 SNS等での情報発信の強化及び職員のスキル向上
地産外商の強化	<ul style="list-style-type: none"> 新商品開発 (H29～) インターネット販売等を活用した外商活動 (H30～) ECサイト見直し (R6～) →商品情報の更新・追加、漁師町ソルトの商品動画の掲載 JR 四国おもてなし観光列車、久礼駅での物販販売 (R2～4) 県外イベントへの参加・商談会への出展 (R2～) 	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
売上高 (施設全体)	3.0 億円 (R4)	3.3 億円			3.9 億円

【用語】・SEAプロジェクト: Shopping (買う)、Eating (食べる)、Amusement (楽しむ) の頭文字から SEAプロジェクトと名付けられた。

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>道の駅商品の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ■(株)SEAプロジェクト <ul style="list-style-type: none"> 生産者・事業者への声かけや説明会による新たな出荷者の掘り起こし 道の駅の集客促進 ■(株)SEAプロジェクト <ul style="list-style-type: none"> 各テナント・生産者との連携によるイベント開催 広報・PR活動 (SNS等含む) による商品・イベント情報発信強化及び職員 員のスキル向上 □県 (地域本部) <ul style="list-style-type: none"> 情報発信 (SNS) について産振アドバイザー制度等の活用を提案 				<p>出荷者の掘り起こし</p>
<p>中心商店街への観光客誘導</p> <ul style="list-style-type: none"> ■(株)SEAプロジェクト <ul style="list-style-type: none"> 観光客周遊促進に向けた情報共有による連携や共同企画の実施 商品を通じた町内事業者の魅力発信 □県 (地域本部) <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の情報提供 				<p>町内商品の販売・事業者の紹介</p>
<p>販売強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ■(株)SEAプロジェクト <ul style="list-style-type: none"> ECサイト内容見直し (商品情報の更新・追加、購入しやすい操作性を向上) による販売力強化 ファストフードコーナーの商品の充実 町内産品を活用した道の駅オリジナル商品による中土佐町の魅力発信 外商活動強化による販売拡大 □県 (地域本部) <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の情報提供 	<p>修正点 洗出し</p>			<p>サイト見直し・運用</p> <p>商品開発・販売</p> <p>商談会・催事への参加</p>

高幡地域アクションプラン

		分野	商工業
AP名 (実施地域)	No.10 栲原町地産地消・外商の促進 (栲原町)		
実施主体	◎栲原町商工振興協同組合、栲原町、JA 高知県（高西地区）、町内事業者、（一社）ゆすはら雲の上観光協会		
APへの位置づけ	H21.4月		
事業概要	生産者の確保や新商品の開発等により、雲の上商品のブランド化など地場産品の商品力を強化するとともに、多くの人々が訪れ魅力的に感じられる新たな道の駅を整備し地産地消・外商を一層推進する。		

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
地場産品の販売促進	<ul style="list-style-type: none"> ECサイト「雲の上ストア」運営開始（R2～） 集出荷事業の開始（R4：実証、R5：開始） 友好都市兵庫県西宮市の「西宮市民まつり」への出店 関西版県産品商談会への出展（菊芋）（R4） 直販所出荷おうえん事業（町単）として営業許可申請に係る費用などを補助（R4～） 道の駅ゆすはらにて自主企画イベント開催（R5） 栲原町役場産業振興課内に道の駅準備室設置（R3） 生産者と道の駅運営者による意見交換会の実施（R4） 道の駅案内看板の設置（R5） 売り場内に生産者紹介POPと出荷物を使ったレシピの設置（R5） 道の駅準備室による先進地視察（R5） 特産品魅力化WSの開催による地場産品の商品力向上（町単）（R6～） 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 町単独事業による支援制度の創設 「直販所出荷おうえん事業」（R4～） 新規出荷登録者数 R5：5名 県版HACCP第2ステージ認証取得 R元：2事業者 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 売上アップに向けた新たな商品の開発・磨き上げ 生産者を支える仕組みの構築
地場産品の商品力向上	<ul style="list-style-type: none"> 県主催食品表示研修や食品表示アドバイザーの活用（H30、R元） 6次産業化アドバイザーの活用（H30） 土佐MBA及び食品生産管理高度化支援研修の受講（H30） 直販所出荷おうえん事業（町単）として生産基盤づくりや生産者意見交換会などを実施 直販所出荷おうえん事業（町単）を活用した生産者による先進地視察研修実施（R5） 	<ul style="list-style-type: none"> 地場産品を使った「雲の上ブランド」商品の販売強化

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
直販所等の販売額	4,832万円 (R4)	5,296万円			1億円

※直販所等：まちの駅「マルシェ・ユスハラ」、「雲の上の市場」（R11年度～まちの駅「マルシェ・ユスハラ」、「新たな道の駅」予定）

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>新たな道の駅の整備と体制等の強化</p> <p>■栲原町</p> <ul style="list-style-type: none"> 運営主体、運営手法の検討選定 活用できる支援制度の検討 <p>■栲原町商工振興協同組合</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存ECサイトの見直しと運用 新しい道の駅で販売する商品の検討選定 出荷者の掘り起こし 人材の確保、専門家派遣による従業員の意識改革 専門家を導入した売り場づくりの検討 <p>□県（地域本部）</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し、アドバイザー導入提案 				人材育成・研修
				商品選定
				出荷者への支援及び生産者掘り起こし
				売り場づくり
<p>新たな地場産品の掘り起こしとPB商品の開発</p> <p>■栲原町商工振興協同組合、（一社）ゆすはら雲の上観光協会、栲原町</p> <ul style="list-style-type: none"> 6次産業化セミナーへの参加、既存の町内地場産品の掘り起こしを行う 「雲の上ブランド」商品のブラッシュアップと新たなPB商品の検討開発 商品パッケージの検討 テイクアウト商品の検討開発 <p>□県（地域本部）</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修会への参加呼びかけ 各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 				地場産品の掘り起こし
				PB商品のブラッシュアップ商品開発
<p>地場産品の付加価値化による販売促進</p> <p>■栲原町商工振興協同組合、（一社）ゆすはら雲の上観光協会、栲原町</p> <ul style="list-style-type: none"> 食品表示研修など商品の魅力向上に向けた各種研修の受講 HACCPに沿った衛生管理の取り組み周知 町外への積極的な販促活動による認知度向上 <p>□県（地域本部）</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し、アドバイザー導入提案 				商品力向上に向けたブランド力の強化
				関係機関と連携したPR活動

高幡地域アクションプラン

		分野	商工業
AP名 (実施地域)	No.10 栲原町地産地消・外商の促進 (栲原町)		
実施主体	◎栲原町商工振興協同組合、栲原町、JA 高知県（高西地区）、町内事業者、（一社）ゆすはら雲の上観光協会		
APへの位置づけ	H21.4月		
事業概要	生産者の確保や新商品の開発等により、雲の上商品のブランド化など地場産品の商品力を強化するとともに、多くの人々が訪れ魅力的に感じられる新たな道の駅を整備し地産地消・外商を一層推進する。		

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
地場産品の販売促進	<ul style="list-style-type: none"> ECサイト「雲の上ストア」運営開始（R2～） 集出荷事業の開始（R4：実証、R5：開始） 友好都市兵庫県西宮市の「西宮市民まつり」への出店 関西版県産品商談会への出展（菊芋）（R4） 直販所出荷おうえん事業（町単）として営業許可申請に係る費用などを補助（R4～） 道の駅ゆすはらにて自主企画イベント開催（R5） 栲原町役場産業振興課内に道の駅準備室設置（R3） 生産者と道の駅運営者による意見交換会の実施（R4） 道の駅案内看板の設置（R5） 売り場内に生産者紹介POPと出荷物を使ったレシピの設置（R5） 道の駅準備室による先進地視察（R5） 特産品魅力化WSの開催による地場産品の商品力向上（町単）（R6～） 県外飲食店とのタイアップ企画の実施（R6～） <u>→産振アドバイザー制度の活用</u> <u>・栲原町産品を使用したレトルト食品5品の開発および外販（R7～）</u> <u>→うち1品に産振アドバイザー制度の活用</u> 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 町単独事業による支援制度の創設 「直販所出荷おうえん事業」（R4～） 新規出荷登録者数 R5：5名 →R6：11名 県版HACCP第2ステージ認証取得 R元：2事業者 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 売上アップに向けた新たな商品の開発・磨き上げ 生産者を支える仕組みの構築 地場産品を使った「雲の上ブランド」商品の販売強化
地場産品の商品力向上	<ul style="list-style-type: none"> 県主催食品表示研修や食品表示アドバイザーの活用（H30、R元） 6次産業化アドバイザーの活用（H30） 土佐MBA及び食品生産管理高度化支援研修の受講（H30） 直販所出荷おうえん事業（町単）として生産基盤づくりや生産者意見交換会などを実施 直販所出荷おうえん事業（町単）を活用した生産者による先進地視察研修実施（R5） <u>・栲原町統一ブランドの構築（R7～）</u> 	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
直販所等の販売額	4,832万円 (R4)	5,296万円			1億円

※直販所等：まちの駅「マルシェ・ユスハラ」、「雲の上の市場」（R11年度～まちの駅「マルシェ・ユスハラ」、「新たな道の駅」予定）

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>新たな道の駅の整備と体制等の強化</p> <p>■栲原町</p> <ul style="list-style-type: none"> 運営主体、運営手法の検討選定 活用できる支援制度の検討 ・町内直販所で販売する商品の生産者支援 <p>■栲原町商工振興協同組合</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存ECサイトの見直しと運用 新しい道の駅で販売する商品の検討選定 出荷者の掘り起こし 人材の確保、専門家派遣による従業員の意識改革 専門家を導入した売り場づくりの検討 <p>□県（地域本部）</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し、アドバイザー導入提案 				人材育成・研修
				商品選定
				生産者・出荷者支援
				売り場づくり
<p>新たな地場産品の掘り起こしとPB商品の開発</p> <p>■（一社）ゆすはら雲の上観光協会、栲原町商工振興協同組合、栲原町</p> <ul style="list-style-type: none"> 6次産業化セミナーへの参加、既存の町内地場産品の掘り起こしを行う 「雲の上ブランド」商品のブラッシュアップと新たなPB商品の検討開発 商品パッケージの検討 テイクアウト商品の検討開発 <p>□県（地域本部）</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修会への参加呼びかけ 各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 				地場産品の掘り起こし
				PB商品のブラッシュアップ 商品開発
<p>地場産品の付加価値化による販売促進</p> <p>■栲原町商工振興協同組合、（一社）ゆすはら雲の上観光協会、栲原町</p> <ul style="list-style-type: none"> 食品表示研修など商品の魅力向上に向けた各種研修の受講 HACCPに沿った衛生管理の取り組み周知 町外への積極的な販促活動による認知度向上 <p>□県（地域本部）</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し、アドバイザー導入提案 				商品力向上に向けた ブランド力の強化
				関係機関と連携したPR活動

高幡地域アクションプラン

		分野	商工業
AP名 (実施地域)	No.12 津野町地産地消・外商推進プロジェクト (津野町)		
実施主体	◎津野町、(有)津野町ふるさとセンター、(株)満天の星、JA 高知県(高西地区)		
APへの位置づけ	H21.4月		
事業概要	町内の生産者や事業者、観光施設等が連携し、生産・流通・販売を一体的に進めるとともに、新商品開発や販売・PRを通じて道の駅やアンテナショップ等における地場産品の地産地消・外商を推進する。併せて、つの茶ブランドの推進やティーツーリズムの取り組みによる茶製品の販売促進と中山間地域における茶園の景観維持を目指す。		

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
アンテナショップの魅力向上と外商の拡大につなげる商品づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 津野町直販機能等強化 (R4) →産振補助金の活用 満天の星リニューアルにかかる第2世代交付金の地域計画の認定 →交付金申請における実施計画の作成(R7) 	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> 道の駅布施ヶ坂入込者数の増加 R1: 138,627人 →R4: 173,531人 →R5: 184,096人 →R6: 176,524人 満天の星とふるさとセンターが連携したメニュー開発 R3~5: 2品 直販所会員の確保 R4: 470人 うち新規会員 9人 R5: 472人 うち新規会員 12人 放棄茶園の再生・維持 R3: 約 0.8ha R4: 約 0.72ha R5: 約 0.86ha <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 直販所の出荷量の確保 地域産品を活用した商品開発 アンテナショップの老朽化 外貨を稼ぐための町内事業者間の連携体制 満天の星ブランドの認知向上 茶の新たな販路開拓やPR活動など、販売体制の強化
出荷量の確保と地産地消の推進	<ul style="list-style-type: none"> 津野町地域資源「ふる」活用ビジネス事業 (H21~23) →産振補助金の活用 営農アドバイザーの配置等による生産者支援の強化充実 道の駅布施ヶ坂リニューアルによる販売強化 (R3)、(有)津野町ふるさとセンターの経営強化 (R4) →高知農山漁村発イノベーションサポートセンターの活用 各社の連携した取り組みの推進 (R3~) 満天の星から星ふるヴィレッジ TENGUへ土産物供給 ふるさとセンターから星ふるヴィレッジ TENGUへ食材供給 満天の星からふるさとセンターへ食堂メニューの提供 (有)津野町ふるさとセンター加工場にティーバッグ加工機、粉砕機、自動計量器を導入 (R6) 	<p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 直販所の出荷量の確保 地域産品を活用した商品開発 アンテナショップの老朽化 外貨を稼ぐための町内事業者間の連携体制 満天の星ブランドの認知向上 茶の新たな販路開拓やPR活動など、販売体制の強化
「つの茶」ブランドの推進による茶製品の販売拡大	<ul style="list-style-type: none"> つの茶販売戦略に基づく茶製品販売拡大事業 (H27) →産振補助金の活用 茶の販売力向上における課題分析 (R2)、「つの茶販売戦略計画」の見直し (R3) →産振アドバイザー制度の活用 土佐茶ワークショップの参加 (R4) 津野町茶業振興計画の策定 (R4) つの茶振興協議会の設立 (R5) 色彩選別機導入による品質向上 (R5) 	<p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 直販所の出荷量の確保 地域産品を活用した商品開発 アンテナショップの老朽化 外貨を稼ぐための町内事業者間の連携体制 満天の星ブランドの認知向上 茶の新たな販路開拓やPR活動など、販売体制の強化

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)主要2社の総売上高	3.70億円 (R4)	4.20億円			4.46億円
(2)直販所総販売額	1.33億円 (R4)	1.21億円			1.40億円
(3)茶製品販売額	3,936万円 (R4)	3,207万円			4,400万円

※町内主要2社:「(有)津野町ふるさとセンター」、「(株)満天の星」
 ※茶製品販売額:JA 高知県(高西地区)と(株)満天の星の茶製品販売額の合計

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>アンテナショップのリニューアルによる魅力発信の強化</p> <p>■津野町</p> <ul style="list-style-type: none"> 市場調査を踏まえたリニューアル方針の検討及び整備 <p>□県(高幡地域本部)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し <p>地域産品(津野町産の茶や農産物など)を生かした商品づくり</p> <p>■(株)満天の星、JA 高知県(高西地区)、(有)津野町ふるさとセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> 産振アドバイザー制度を活用し、新商品や加工品を開発 展示会や商談会、WEBでのPR発信による農産物・加工品の販売拡大 <p>□県(高幡地域本部)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 商品開発に関する産振アドバイザー制度の活用を提案 		計画		
		設計		工事
				新商品の開発、販売・PR
<p>安心・安全な農産物の出荷と高付加価値化の取り組み</p> <p>■津野町</p> <ul style="list-style-type: none"> 営農アドバイザーの配置等による生産者支援(維持、確保) 荒廃農地を活用した有機農業の取り組みの検討 <p>□県(高幡地域本部等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し、広報支援 <p>事業者間の連携による地産地消外商の推進</p> <p>■津野町、(有)津野町ふるさとセンター、(株)満天の星</p> <ul style="list-style-type: none"> 町内産品の地域内循環の仕組みづくり 				生産者支援、有機農業の取り組みの検討
				連携会議の実施、地域内循環の仕組みづくり
<p>茶製品の販売拡大と中山間地域における景観の維持</p> <p>■津野町</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産・消費販売・文化振興を柱とした「津野町茶業振興計画」の推進 ティーツーリズムや観光とタイアップした取り組みの実施 <p>□県(地域観光課、高幡地域本部等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 				「津野町茶業振興計画」の推進
		ティーツーリズム等の検討		ティーツーリズム等の実施

高幡地域アクションプラン

		分野	商工業
AP名 (実施地域)	No.12 津野町地産地消・外商推進プロジェクト (津野町)		
実施主体	◎津野町、(有)津野町ふるさとセンター、(株)満天の星、JA 高知県(高西地区)		
APへの位置づけ	H21.4月		
事業概要	町内の生産者や事業者、観光施設等が連携し、生産・流通・販売を一体的に進めるとともに、新商品開発や販売・PRを通じて道の駅やアンテナショップ等における地場産品の地産地消・外商を推進する。併せて、つの茶ブランドの推進やティーツーリズムの取り組みによる茶製品の販売促進と中山間地域における茶園の景観維持を目指す。		

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
アンテナショップの魅力向上と外商の拡大につなげる商品づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 津野町直販機能等強化 (R4) →産振補助金の活用 満天の星リニューアルにかかる第2世代交付金の地域計画の認定 →交付金申請における実施計画の作成(R7) 満天の星への指定管理期間満了後の、来期方針の検討 (R7) 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 道の駅布施ヶ坂入込者数の増加 R1: 138,627人 →R6: 176,524人 満天の星とふるさとセンターが連携したメニュー開発 R3~6: 2品 直販所会員の確保 R6: 449人 うち新規会員 13人 放棄茶園の再生・維持 R6: 約0.72ha
出荷量の確保と地産地消の推進	<ul style="list-style-type: none"> 津野町地域資源「ふる」活用ビジネス事業 (H21~23) →産振補助金の活用 直販所 営農コーディネーターの配置等による生産者支援の強化充実 道の駅布施ヶ坂リニューアルによる販売強化 (R3)、(有)津野町ふるさとセンターの経営強化 (R4) →高知農山漁村発イノベーションサポートセンターの活用 各社の連携した取り組みの推進 (R3~) 満天の星から星ふるヴィレッジ TENGU へ土産物供給 ふるさとセンターから星ふるヴィレッジ TENGU へ食材供給 満天の星からふるさとセンターへ食堂メニューの提供 (有)津野町ふるさとセンター加工場にティーバッグ加工機、粉砕機、自動計量器を導入 (R6) 持続可能な直販制度の設計及び検討を行う「津野町直販最適化委員会」の設立 (R7) 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 直販所の出荷量の確保 茶の生産者の減少 地域産品を活用した商品開発 アンテナショップ、道の駅の老朽化 外貨を稼ぐための町内事業者間の連携体制 満天の星ブランドの認知向上 茶の新たな販路開拓やPR活動など、販売体制の強化
「つの茶」ブランドの推進による茶製品の販売拡大	<ul style="list-style-type: none"> つの茶販売戦略に基づく茶製品販売拡大事業 (H27) →産振補助金の活用 茶の販売力向上における課題分析 (R2)、「つの茶販売戦略計画」の見直し (R3) →産振アドバイザー制度の活用 土佐茶ワークショップの参加 (R4) 津野町茶業振興計画の策定 (R4) つの茶振興協議会の設立 (R5) 色彩選別機導入による品質向上 (R5) 	<ul style="list-style-type: none"> 茶の新たな販路開拓やPR活動など、販売体制の強化

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)主要2社の総売上高	3.70億円 (R4)	4.20億円			4.46億円
(2)直販所総販売額	1.33億円 (R4)	1.21億円			1.40億円
(3)茶製品販売額	3,936万円 (R4)	3,207万円			4,400万円

※町内主要2社:「(有)津野町ふるさとセンター」、「(株)満天の星」
 ※茶製品販売額:JA 高知県(高西地区)と(株)満天の星の茶製品販売額の合計

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>アンテナショップのリニューアルによる魅力発信の強化</p> <p>■津野町</p> <ul style="list-style-type: none"> 市場調査、今後の指定管理の方針を踏まえたリニューアル方針の検討及び整備 <p>□県(高幡地域本部)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し <p>地域産品(津野町産の茶や農産物など)を生かした商品づくり</p> <p>■(株)満天の星、JA 高知県(高西地区)、(有)津野町ふるさとセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> 産振アドバイザー制度を活用し、新商品や加工品を開発 展示会や商談会、WEBでのPR発信による農産物・加工品の販売拡大 <p>□県(高幡地域本部)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 商品開発に関する産振アドバイザー制度の活用を提案 		計画		設計
<p>安心・安全な農産物の出荷と高付加価値化の取り組み</p> <p>■津野町</p> <ul style="list-style-type: none"> 直販所 営農コーディネーターの配置等による生産者支援(維持、確保) 荒廃農地を活用した有機農業の取り組みの検討 「津野町直販最適化委員会」の定期的な開催による生産者と関係機関の意見交換 <p>□県(高幡地域本部等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し、広報支援 <p>事業者間の連携による地産地消外商の推進</p> <p>■津野町、(有)津野町ふるさとセンター、(株)満天の星</p> <ul style="list-style-type: none"> 町内産品の地域内循環の仕組みづくり 			生産者支援、有機農業の取り組みの検討	直販所のあり方を検討
<p>茶製品の販売拡大と中山間地域における景観の維持</p> <p>■津野町</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産・消費販売・文化振興を柱とした「津野町茶業振興計画」の推進 ティーツーリズムや観光とタイアップした取り組みの実施 <p>□県(地域観光課、高幡地域本部等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 				「津野町茶業振興計画」の推進
		ティーツーリズム等の検討		ティーツーリズム等の実施

高幡地域アクションプラン

分野 商工業

AP名 (実施地域)	No.14 四万十町生姜生産農家と連携した集出荷体制の整備と販売拡大 (四万十町)
実施主体	◎RELA GREEN VILLAGE(株)
APへの位置づけ	H31.4月
事業概要	生姜の生産者かつ集出荷者としての経験を生かし、病害発生により早期収穫した生姜の受入・加工・販売に取り組む。それらの販路開拓や新規事業の実施により、四万十町産をはじめとした近隣地域の生姜の知名度向上を狙う。 また、町内の生姜農家や企業等と連携し、減農薬栽培に向けた取り組みを進めることで、地域の生姜農家の所得安定・向上や雇用の創出を目指す。

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
施設整備	<ul style="list-style-type: none"> 施設整備予定地の選定 (H30～) 施設整備予定地の決定 (R3) 	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> 新商品の開発 R元～R5:3件 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 早期収穫された生姜の有効活用 一次処理施設の整備 環境負荷低減の加工施設整備の検討
商品開発、販売促進	<ul style="list-style-type: none"> ガリ製造用真空パック機器をリースにて整備 (R元) 個別包装機器をリースにて整備 (R元) スライサー、フードプロセッサ等を導入 (R2) ショウガのお茶の開発 (R2) ショウガプロテインの開発 (R4) 農業者ネットワーク「四万十組」による首都圏でのイベント参加 (R4～R5) 	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
売上高※	962万円 (R4)				1,480万円

※会計年度：9月～8月

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>ショウガの一次処理施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ■RELA GREEN VILLAGE(株) <ul style="list-style-type: none"> 計画策定 施設整備及び稼働 □県(地域本部等) <ul style="list-style-type: none"> 産振補助金の活用支援、各種支援制度の情報提供 <p>製造体制及び衛生管理体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ■RELA GREEN VILLAGE(株) <ul style="list-style-type: none"> 新たな人材の雇用 HACCPに沿った衛生管理の実施 □県(地域本部等) <ul style="list-style-type: none"> 各種研修会への参加呼びかけ 	計画策定	施設整備及び稼働	HACCPに沿った衛生管理の実施	
<p>商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ■RELA GREEN VILLAGE(株) <ul style="list-style-type: none"> 新商品開発、OEM製造の開始 減農薬等こだわりの原材料の栽培、SDGsを意識した栽培方法の検討 □県(地域本部等) <ul style="list-style-type: none"> 商品開発に関する産振アドバイザー制度の活用を提案、各種支援制度の情報提供 <p>販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ■RELA GREEN VILLAGE(株) <ul style="list-style-type: none"> 商談会等への参加による販路開拓、イベント開催等による情報発信 □県(地域本部等) <ul style="list-style-type: none"> 商談会等の情報提供 	商品開発	OEM製造販売開始	商談会等への参加	

高幡地域アクションプラン

分野 商工業

AP名 (実施地域)	No.14 四万十町生姜生産農家と連携した集出荷体制の整備と販売拡大 (四万十町)
実施主体	◎RELA GREEN VILLAGE(株)
APへの位置づけ	H31.4月
事業概要	生姜の生産者かつ集出荷者としての経験を生かし、病害発生により早期収穫した生姜の受入・加工・販売に取り組む。それらの販路開拓や新規事業の実施により、四万十町産をはじめとした近隣地域の生姜の知名度向上を狙う。 また、町内の生姜農家や企業等と連携し、減農薬栽培に向けた取り組みを進めることで、地域の生姜農家の所得安定・向上や雇用の創出を目指す。

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
施設整備	<ul style="list-style-type: none"> 施設整備予定地の選定 (H30～) 施設整備予定地の決定 (R3) <u>施設整備予定地の再検討、決定 (R6～R7)</u> 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新商品の開発 R元～R7: 4件 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>加工処理施設の整備</u> <u>商品数の増加</u>
商品開発、販売促進	<ul style="list-style-type: none"> ガリ製造用真空パック機器をリースにて整備 (R元) 個別包装機器をリースにて整備 (R元) スライサー、フードプロセッサ等を導入 (R2) ショウガのお茶の開発 (R2) ショウガプロテインの開発 (R4) 農業者ネットワーク「四万十組」による首都圏でのイベント参加 (R4～R5) 	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
売上高※	962万円 (R4)	459万円			1,480万円

※会計年度：9月～8月

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>ショウガの加工処理施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ■RELA GREEN VILLAGE(株) <ul style="list-style-type: none"> 計画策定 施設整備及び稼働 □県 (地域本部等) <ul style="list-style-type: none"> 産振補助金の活用支援、各種支援制度の情報提供 <p>製造体制及び衛生管理体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ■RELA GREEN VILLAGE(株) <ul style="list-style-type: none"> 新たな人材の雇用 HACCP に沿った衛生管理の実施 □県 (地域本部等) <ul style="list-style-type: none"> 各種研修会への参加呼びかけ 			<p>計画策定</p> <p>施設整備</p> <p>稼働</p> <p>HACCP に沿った衛生管理</p>	
<p>商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ■RELA GREEN VILLAGE(株) <ul style="list-style-type: none"> 新商品開発 減農薬等こだわりの原材料の栽培、SDGs を意識した栽培方法の検討 □県 (地域本部等) <ul style="list-style-type: none"> 商品開発に関する産振アドバイザー制度の活用を提案、各種支援制度の情報提供 <p>販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ■RELA GREEN VILLAGE(株) <ul style="list-style-type: none"> 商談会等への参加による販路開拓、イベント開催等による情報発信 □県 (地域本部等) <ul style="list-style-type: none"> 商談会等の情報提供 	商品開発・販売			商談会等への参加

高幡地域アクションプラン

分野 観光

AP名 (実施地域)	No.16 須崎市海のまちプロジェクト (須崎市)
実施主体	◎須崎市、須崎市海のまちプロジェクト推進協議会、(一社)須崎海のまち公社
APへの位置づけ	R3.9月
事業概要	須崎駅を含む中心市街地を「海のまち」と定義し、コアゾーンとして整備・活用することにより、地域活性化の拠点づくりを行うとともに、「海のまち」を起点にさまざまな事業と連携することで須崎市を拠点に奥四万十エリア全域まで波及効果を促す仕組みづくりを行う。

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
海のまち創り・リノベーション	<ul style="list-style-type: none"> 産官学金等多数の関係者による推進協議会の立ち上げ (R3) JR 須崎駅をリノベーションし海のまち須崎駅完成 (R3) 高知銀行旧須崎支店をリノベーションした須崎大漁堂オープン (R4) エリアへのエントランスとなるランドマーク「須崎百寿門」の完成 (R5) 旧郵便局跡を活用した須崎サカナ本舗オープン (R5) 須崎のサカナ文化祭の開催 (R6) 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たな観光スポットの完成による入込数の増加 R2 : 5,522 人 →R4 : 28,089 人 →R5 : 51,979 人 イベント開催による須崎市への来訪者の増加および商店街の活性化 イベントへの参加者 (海のまちマルシェほか) R3 : 5,110 人 R4 : 15,300 人 R5 : 23,300 人 R6 : 40,430 人 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 受入体制の強化 人手不足
海のまちの魅力の向上・再発見	<ul style="list-style-type: none"> 施設完成に合わせたイベントの開催 (R3～) 起業支援につながる補助制度の創出 (R3) 富士が浜でのくつろぎポイントづくりの検討 (R3～) 高知アニメクリエイター聖地プロジェクトと連動したイベント開催 (R4～) 地域資源である石灰を活用したイベントの開催 (R4) JR 海のまち須崎駅のトイレ改修 (R4) 空き店舗活用や企業誘致に関する先進地視察 2 件 (R4) (一社) 須崎海のまち公社の設立 (R5) 釣りバカシティブロジェクト関連イベントの開催 (R6) 	
エリア外との連携促進	<ul style="list-style-type: none"> 浦ノ内マリンパークと連携したイベントの開催 ふるさと納税制度を活用した財源の確保 	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
主要施設等の入込数	28,089 人 (R4)	73,248 人			53,000 人

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>海のまちのブランディング</p> <ul style="list-style-type: none"> ■須崎市 <ul style="list-style-type: none"> エリアごとのブランディング □県 (地域本部) <ul style="list-style-type: none"> 必要に応じたアドバイザー制度等の紹介、情報収集 <p>まちまるごとホテル整備事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ■須崎市 <ul style="list-style-type: none"> 事業計画の策定 候補物件の選定、設計・整備の実施 □県 (住宅課、地域観光課、地域本部) <ul style="list-style-type: none"> 空き家対策総合支援事業等の制度活用に向けた支援 				
	エリア内の総合的なブランディング			
	設計	整備		
	物件選定		設計、整備	
<p>観光クラスター整備事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ■須崎市 <ul style="list-style-type: none"> 計画に基づいた事業の実施・ブラッシュアップ ソフト事業の検討・実施 □県 (地域本部) <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し <p>釣りバカシティブロジェクトの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ■須崎市 <ul style="list-style-type: none"> 釣りバカシティブロジェクトに基づく事業の実施 計画のブラッシュアップ □県 (地域本部) <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 				
	計画に基づいた事業等の実施			
	計画に基づいた事業の実施			
	計画のブラッシュアップ 次期計画の検討・実施			
<p>市内、高幡エリアへの周遊促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ■須崎市、須崎市海のまちプロジェクト推進協議会 <ul style="list-style-type: none"> 旅行企画の造成 拠点における情報発信方法の検討、実施 □県 (地域本部) <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 				
	コンテンツの造成			
	関係機関と連携した旅行商品造成			

高幡地域アクションプラン

		分野	観光
AP名 (実施地域)	No.16 須崎市海のまちプロジェクト (須崎市)		
実施主体	◎須崎市、須崎市海のまちプロジェクト推進協議会、(一社)須崎海のまち公社		
APへの位置づけ	R3.9月		
事業概要	須崎駅を含む中心市街地を「海のまち」と定義し、コアゾーンとして整備・活用することにより、地域活性化の拠点づくりを行うとともに、「海のまち」を起点にさまざまな事業と連携することで須崎市を拠点に奥四万十エリア全域まで波及効果を促す仕組みづくりを行う。		

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
海のまち創り・リノベーション	<ul style="list-style-type: none"> 産官学金等多数の関係者による推進協議会の立ち上げ (R3) JR 須崎駅をリノベーションし海のまち須崎駅完成 (R3) 高知銀行旧須崎支店をリノベーションした須崎大漁堂オープン (R4) エリアへのエントランスとなるランドマーク「須崎百寿門」の完成 (R5) 旧郵便局跡を活用した須崎サカナ本舗オープン (R5) 須崎のサカナ文化祭の開催 (R6、R7) <u>海のまちロゴ作成 (R7)</u> 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たな観光スポットの完成による入込数の増加 R2 : 5,522 人 <u>→R6 : 73,248 人</u> イベント開催による須崎市への来訪者の増加および商店街の活性化 イベントへの参加者 (海のまちマルシェほか) R3 : 5,110 人 R4 : 15,300 人 R5 : 23,300 人 R6 : 40,430 人 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>駐車場の不足</u> <u>周辺地域への周遊促進</u>
海のまちの魅力の向上・再発見	<ul style="list-style-type: none"> 施設完成に合わせたイベントの開催 (R3～) 起業支援につながる補助制度の創出 (R3) 富士が浜でのくつろぎポイントづくりの検討 (R3～) 高知アニメクリエイター聖地プロジェクトと連動したイベント開催 (R4～) 地域資源である石灰を活用したイベントの開催 (R4) JR 海のまち須崎駅のトイレ改修 (R4) 空き店舗活用や企業誘致に関する先進地視察 2 件 (R4) (一社) 須崎海のまち公社の設立 (R5) 釣りバカシティブロジェクト関連イベントの開催 (R6、R7) <u>釣りバカシティブロジェクト公式 HP 及び SNS の開設 (R7)</u> 	
エリア外との連携促進	<ul style="list-style-type: none"> 浦ノ内マリンパークと連携したイベントの開催 ふるさと納税制度を活用した財源の確保 	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
主要施設等の入込数	28,089 人 (R4)	73,248 人			53,000 人

第 5 期計画における行程表

事業概要	R6	R7	R8	R9	
海のまちのブランディング ■須崎市 ・エリアごとのブランディング □県 (地域本部) ・必要に応じたアドバイザー制度等の紹介、情報収集 まちまるごとホテル整備事業の推進 ■須崎市 ・事業計画の策定 ・候補物件の選定、設計・整備の実施 □県 (住宅課、地域観光課、地域本部) ・空き家対策総合支援事業等の制度活用に向けた支援		エリア内の総合的なブランディング 設計	整備	物件選定	設計、整備
観光クラスター整備事業の推進 ■須崎市 ・計画に基づいた事業の実施・ブラッシュアップ ・ソフト事業の検討・実施 □県 (地域本部) ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 釣りバカシティブロジェクトの推進 ■須崎市 ・釣りバカシティブロジェクトに基づく事業の実施 ・計画のブラッシュアップ □県 (地域本部) ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し			計画に基づいた事業等の実施	計画に基づいた事業の実施	計画のブラッシュアップ 次期計画の検討・実施
市内、高幡エリアへの周遊促進 ■須崎市、須崎市海のまちプロジェクト推進協議会 ・旅行企画の造成 ・拠点における情報発信方法の検討、実施 □県 (地域本部) ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し			コンテンツの造成		関係機関と連携した旅行商品造成

高幡地域アクションプラン

分野 観光

AP名 (実施地域)	No.18 スケートパークを核とした地域の活性化 (須崎市)
実施主体	◎須崎市
APへの位置づけ	R6.4月
事業概要	魅力的な「公共スケートパーク」を整備し、新たなスポーツ分野であるストリートスポーツを通じて、地域の若年層やファミリー層をはじめ、これまで須崎市を訪れることのなかった層に訪れてもらうことにより交流人口の拡大を図るとともに、既存の観光客の滞在時間の延長を図り、地域への経済波及効果を促す。

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
魅力ある施設の整備 に向けた協議等	<ul style="list-style-type: none"> ・「須崎市のスケートボードパークをつくる会」から須崎市に要望 (R3) ・NPO 法人日本スケートパーク協会と協議 (R4) ・基本構想の策定 (R4) ・土地所有者との用地交渉 (R4～) ・用地候補、施設整備の内容等の関係者間協議 (R4～) ・先進地の視察 (大阪府松原市「スケボーのまち まつばら」まちづくり戦略) (R5) ・NPO 法人日本スケートパーク協会による設計監修 (R6) ・農地転用の申請許可 (R6) ・基本設計の策定 (R6) 	<p>【成果】</p> <p>—</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・費用対効果を踏まえた施設規模および設備の検討
ストリートスポーツを 活用した誘客方法の 検討	<ul style="list-style-type: none"> ・(再掲) 先進地の視察 (大阪府松原市「スケボーのまち まつばら」まちづくり戦略) (R5) ・スケートパークの全体及び各エリアの3D図面の作成 (R6) 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性や実績を踏まえた運営主体の検討 ・競技力向上及び競技人口増加に向けた事業計画の検討
効果的なプロモーションの 検討	<ul style="list-style-type: none"> ・(再掲) 先進地の視察 (大阪府松原市「スケボーのまち まつばら」まちづくり戦略) (R5) 	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
主要施設等の入込数	—	—	—	—	27,000人

※設計前の見込みであり、設計完了後に再検討

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
施設整備 ■須崎市 ・基本、実施設計、施設整備 □県 (スポーツ課、地域本部) ・支援策の検討 (高知県スポーツ推進交付金の活用など) 運営体制の構築 ■須崎市 ・運営方法および運営主体の検討 ・教室開催等に係る指導者の確保	設計および整備	運営検討	R8年度オープン 予定 運営開始	指導者確保
施設機能の検討・提供 ■須崎市 ・初級者～上級者向けのコースの検討・提供 ・ファミリー層向けエリアの検討・提供 ・レンタル事業の展開や初心者教室の開催 全国規模の大会開催 ■須崎市 ・大会の検討及び開催 ・トップアスリートの招聘	施設機能の 検討・提供		教室の開催	大会の開催
効果的なプロモーション・イベント等の企画・実施 ■須崎市 ・SNSを活用した情報発信方法の検討・実施 ・アートや音楽と連動したイベントの検討・実施 ・周辺エリアへの周遊の仕組みづくり	情報発信方法の検討・実施	イベントの検討・実施	周遊の仕組みづくり	

高幡地域アクションプラン

		分野	観光
AP名 (実施地域)	No.18 スケートパークを核とした地域の活性化 (須崎市)		
実施主体	◎須崎市		
APへの位置づけ	R6.4月		
事業概要	魅力的な「公共スケートパーク」を整備し、新たなスポーツ分野であるストリートスポーツを通じて、地域の若年層やファミリー層をはじめ、これまで須崎市を訪れることのなかった層に訪れてもらうことにより交流人口の拡大を図るとともに、既存の観光客の滞在時間の延長を図り、地域への経済波及効果を促す。		

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
魅力ある施設の整備 に向けた協議等	<ul style="list-style-type: none"> 「須崎市のスケートボードパークをつくる会」から須崎市に要望 (R3) 基本構想の策定 (R4) 用地候補、施設整備の内容等の関係者間協議 (R4~) 先進地の視察 (大阪府松原市「スケボーのまち まつばら」まちづくり戦略) (R5) NPO 法人日本スケートパーク協会による設計監修 (R6) 農地転用の申請許可 (R6) 基本設計の策定 (R6) <u>スケートパーク工事関連事業者の決定 (R7)</u> <u>先進地の視察 (東京都八王子市「プラネットパークI」) (R7)</u> 	<p>【成果】</p> <p>—</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 費用対効果を踏まえた施設規模および設備の検討 専門性や実績を踏まえた運営主体の検討 <u>幅広い層へスポーツに親しむ機会の提供等、誘客に向けた取り組みの検討</u> 競技力向上及び競技人口増加に向けた事業計画の検討
ストリートスポーツを 活用した誘客方法の 検討	<ul style="list-style-type: none"> (再掲) 先進地の視察 (大阪府松原市「スケボーのまち まつばら」まちづくり戦略) (R5) スケートパークの全体及び各エリアの3D 図面の作成 (R6) 	
効果的なプロモーションの 検討	<ul style="list-style-type: none"> (再掲) 先進地の視察 (大阪府松原市「スケボーのまち まつばら」まちづくり戦略) (R5) 	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
主要施設等の入込数	—	—	—	—	28,000人

※設計前の見込みであり、設計完了後に再検討

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
施設整備 ■須崎市 ・基本、実施設計、施設整備 □県 (スポーツツーリズム課、地域本部) ・支援策の検討 (高知県スポーツ推進交付金の活用など) 運営体制の構築 ■須崎市 ・運営方法および運営主体の検討 ・教室開催等に係る指導者の確保	設計および整備		R8 年度オープン 予定 運営開始	
施設機能の検討・提供 ■須崎市 ・初級者～上級者向けのコースの検討・提供 ・ファミリー層向けエリアの検討・提供 ・レンタル事業の展開や初心者教室の開催 イベントや大会の開催 ■須崎市 ・ローカル大会、アーバンスポーツイベントの検討及び開催 ・トップアスリートの招聘 ・子供向け大会及び全国規模大会の検討・誘致	施設機能の 検討・提供		ローカル大会や 教室の開催	大会の 検討・誘致
効果的なプロモーション・イベント等の企画・実施 ■須崎市 ・SNS を活用した情報発信方法の検討・実施 ・アートや音楽と連動したイベントの検討・実施 ・周辺エリアへの周遊の仕組みづくり ・ <u>オープニングイベントの検討・実施</u>	情報発信方法の検討・実施			
				イベントの検討・実施
				周遊の仕組みづくり

高幡地域アクションプラン

	分野	観光
AP名 (実施地域)	No.19 カツオを起点とした持続可能な観光を主軸とする地域産業の振興 (中土佐町)	
実施主体	◎(一社)なかとさ観光協会、中土佐町、(株)中土佐町地域振興公社、大正町市場協同組合、中土佐町商工会	
APへの位置づけ	H21.4月	
事業概要	10年後も「土佐久礼かつお」の本場としてカツオを食べにお越しいただける町を目指して、町内関係者が連携してカツオによる観光を推進することでカツオ産業を守り、カツオを起点とした持続可能な観光地域づくりを行う。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
受け入れ態勢の強化	<ul style="list-style-type: none"> 観光拠点施設「ぜよびあ」オープン (H28) →観光拠点等整備事業費補助金の活用 黒潮本陣コテージ改修、コテージ遊歩道整備 (R2) →観光施設等緊急整備事業費補助金の活用 黒潮本陣本館改修 (R3) →観光振興推進総合支援事業費補助金の活用 観光客の利便性向上 (コインロッカー整備) 	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験受入数 R6:1,890人 宿泊者数(黒潮本陣) R6 8,434人 大正町市場入込数 R6:237,440人 SNS フォロワー数 Instagram:6,700人 R6周遊プランの造成 3件 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 周遊促進と滞在時間延長の仕組みづくり 観光客受け入れ環境の整備 関西圏からの集客促進
土佐久礼かつおのファンづくり	<ul style="list-style-type: none"> 「かつお祭」など町内イベントの開催 土佐久礼におけるカツオを中心とした食体験のインバウンド施策 (R5) →観光庁観光コンテンツ造成支援事業の活用 関西圏へのイベント出店 (R5~) 高知空港中土佐フェア開催 (R5~) 高知県アンテナショップ (東京・大阪)で「土佐久礼かつおフェア」開催 (R6) カツオ授業の実施 (町内小中学校 6回/年、昭和小学校、梶原中学校、JICA 研修、台湾留学生研修、奥四万十高知研修等) 	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験受入数 R6:1,890人 宿泊者数(黒潮本陣) R6 8,434人 大正町市場入込数 R6:237,440人 SNS フォロワー数 Instagram:6,700人 R6周遊プランの造成 3件 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 周遊促進と滞在時間延長の仕組みづくり 観光客受け入れ環境の整備 関西圏からの集客促進
観光客の町内周遊促進	<ul style="list-style-type: none"> 食と体験の深掘りと回遊商品開発 (R4) →観光庁看板商品創出事業の活用 周遊プランの作成とツアーの実施 (R5) 「昔ながらの漁師町の路地を巡る昭和にタイムスリップコース」 「土佐久礼 NO KATSUO NO LIFE コース」 	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験受入数 R6:1,890人 宿泊者数(黒潮本陣) R6 8,434人 大正町市場入込数 R6:237,440人 SNS フォロワー数 Instagram:6,700人 R6周遊プランの造成 3件 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 周遊促進と滞在時間延長の仕組みづくり 観光客受け入れ環境の整備 関西圏からの集客促進

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)観光施設入込数	476,457人 (R4)	543,314人			524,000人
(2)黒潮本陣宿泊者数	8,529人※ (R4)	8,434人			12,000人
(3)タキ体験受入数	1,512人 (R4)	2,109人			2,200人
(4)町内事業者へのカツオ販売額	143百万円 (R4)	159百万円			157百万円

※3ヶ月(1~3月)の休業あり

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>観光協会の体制整備</p> <p>■(一社)なかとさ観光協会</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光案内を強化するための拠点整備の検討及び体制強化(人材確保及び特性に応じた育成、自主事業開発と収益性担保、組織体の拡充等) 観光客等の利便性向上 機能強化(観光客おもてなしのための物販機能の検討や商品開発) <p>□県(地域本部)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の情報提供 	<p>拠点整備</p>	<p>体制整備・機能強化</p>		
		<p>観光案内情報発信</p>		
	<p>物販機能の検討</p>		<p>お土産商品開発・販売</p>	
<p>関西圏等におけるPR活動の強化</p> <p>■(一社)なかとさ観光協会、中土佐町商工会</p> <ul style="list-style-type: none"> 関西圏や高知空港などでのイベント・催事による「土佐久礼かつお」のファンづくり <p>□県(地域本部、大阪事務所)</p> <ul style="list-style-type: none"> 関西圏で実施されるイベント等の情報提供、支援制度の紹介 <p>中土佐町を訪問した観光客へのPR</p> <p>■(一社)なかとさ観光協会、地元事業者</p> <ul style="list-style-type: none"> インバウンドを意識した観光客向けカツオプロモーション カツオ授業の実施(小学生、大人、観光客向け) 		<p>関西圏を中心とした県外でのPR活動</p>		
			<p>観光客へのPR (観光列車の乗客へのPR、カツオ授業等)</p>	
<p>周遊の仕組みづくり</p> <p>■(一社)なかとさ観光協会</p> <ul style="list-style-type: none"> 中土佐町内の観光素材を周遊する観光コースの提案(土佐久礼駅、久礼大正町市場、道の駅なかとさ、黒潮本陣、久礼八幡宮、双名島、西岡酒造店、美術館、漁業体験など) どぶり高知旅キャンペーンによるツアー商品造成 観光客向けのサービス充実(レンタサイクル事業、手荷物預かりサービス) 中心商店街周辺の駐車場整備に向けた検討 <p>□県(地域観光課、地域本部)</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光関連支援制度の情報提供 		<p>周遊プランの磨き上げ・提供</p>		
	<p>設備整備</p>		<p>設備を活用した周遊促進 (レンタサイクル等)</p>	

高幡地域アクションプラン

分野 観光

AP名 (実施地域)	No.19 カツオを起点とした持続可能な観光を主軸とする地域産業の振興 (中土佐町)
実施主体	◎(一社)なかとさ観光協会、中土佐町、(株)中土佐町地域振興公社、大正町市場協同組合、中土佐町商工会
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	10年後も「土佐久礼かつお」の本場としてカツオを食べにお越しいただける町を目指して、町内関係者が連携してカツオによる観光を推進することでカツオ産業を守り、カツオを起点とした持続可能な観光地域づくりを行う。

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
受け入れ態勢の強化	<ul style="list-style-type: none"> 観光拠点施設「ぜよびあ」オープン (H28) →観光拠点等整備事業費補助金の活用 黒潮本陣コテージ改修、コテージ遊歩道整備 (R2) →観光施設等緊急整備事業費補助金の活用 黒潮本陣本館改修 (R3) →観光振興推進総合支援事業費補助金の活用 観光客の利便性向上のためのコインロッカー整備 (R6~) 観光協会の中期事業計画の策定及び経営体制整備 (R7) →産振アドバイザー制度の活用 	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> R6 周遊プランの造成 3件 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光協会の組織体制の強化及び持続的な運営に向けた収益性の向上 黒潮本陣の宿泊者数の増加対策
土佐久礼かつおのファンづくり	<ul style="list-style-type: none"> 「かつお祭」など町内イベントの開催 土佐久礼におけるカツオを中心とした食体験のインバウンド施策 (R5) →観光庁観光コンテンツ造成支援事業の活用 関西圏へのイベント出店 (R5~) 高知空港中土佐フェア開催 (R5~) 高知県アンテナショップ (東京・大阪)で「土佐久礼かつおフェア」開催 (R6、R7) カツオ授業の実施 (町内小中学校等) (R4~) 県内中高生向けカツオ教育ツアーの実施 (R7~) 	<ul style="list-style-type: none"> 周遊促進と滞在時間延長の仕組みづくり 黒潮本陣の宿泊者数の増加対策
観光客の町内周遊促進	<ul style="list-style-type: none"> 食と体験の深掘りと回遊商品開発 (R4) →観光庁看板商品創出事業の活用 周遊プランの作成とツアーの実施: 2商品 (R5~) どっぶり高知旅キャンペーンと連動した旅行商品(3商品)の販売開始 (R7.3月~:1商品、R7.4月~:2商品) (R6~) 	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)観光施設入込数	476,457人 (R4)	543,314人			524,000人
(2)黒潮本陣宿泊者数	8,529人※ (R4)	8,434人			12,000人
(3)タキキ体験受入数	1,512人 (R4)	2,070人			2,200人
(4)町内事業者へのカツオ販売額	143百万円 (R4)	159百万円			157百万円

※3ヶ月(1~3月)の休業あり

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>観光協会の体制整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ■(一社)なかとさ観光協会 <ul style="list-style-type: none"> 観光案内を強化するための拠点整備の検討及び体制強化(人材確保及び特性に応じた育成、自主事業開発と収益性担保、組織体の拡充等) 観光客等の利便性向上 機能強化(観光客おもてなしのための物販機能の検討や商品開発) □県(地域本部) <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の情報提供 	<p>拠点整備</p>	<p>体制整備・機能強化</p>		
		<p>観光案内情報発信</p>		
	<p>物販機能の検討</p>		<p>お土産商品開発・販売</p>	
<p>関西圏等におけるPR活動の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ■(一社)なかとさ観光協会、中土佐町商工会 <ul style="list-style-type: none"> 東京や関西圏、高知空港などでのイベント・催事による「土佐久礼かつお」のファンづくり □県(地域本部、大阪事務所) <ul style="list-style-type: none"> 県外で実施されるイベント等の情報提供、支援制度の紹介 <p>中土佐町を訪問した観光客へのPR</p> <ul style="list-style-type: none"> ■(一社)なかとさ観光協会、地元事業者 <ul style="list-style-type: none"> インバウンドを意識した観光客向けカツオプロモーション カツオ授業の実施(小学生、大人、観光客向け) 	<p>関西圏を中心とした県外でのPR活動</p>	<p>県外でのPR活動</p>		
			<p>観光客へのPR (観光列車の乗客へのPR、カツオ授業等)</p>	
<p>周遊の仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ■(一社)なかとさ観光協会 <ul style="list-style-type: none"> 中土佐町内の観光素材を周遊する観光コースの提案(土佐久礼駅、久礼大正町市場、道の駅なかとさ、黒潮本陣、久礼八幡宮、双名島、西岡酒造店、美術館、漁業体験など) 観光客向けのサービス充実(レンタサイクル事業、手荷物預かりサービス) 中心商店街周辺の駐車場整備に向けた検討 □県(地域観光課、地域本部) <ul style="list-style-type: none"> 観光関連支援制度の情報提供 		<p>周遊プランの磨き上げ・提供</p>		
	<p>設備整備</p>		<p>設備を活用した周遊促進 (レンタサイクル等)</p>	

高幡地域アクションプラン

		分野	観光
AP名 (実施地域)	No.20 栲原町の体験型・滞在型観光の推進 (栲原町)		
実施主体	◎(一社)ゆすはら雲の上観光協会、栲原町、栲原町商工会、松原まろうど会、坂本龍馬脱藩の郷 ゆすはらであいの会		
APへの位置づけ	H21.4月		
事業概要	栲原町の玄関口である太郎川公園を拠点とし、新たなホテル等の整備と併せて、観光スポットである隈研吾建築群、坂本龍馬脱藩の道や森林セラピーロードなどの滞在型観光や新たな体験プログラムの造成による体験型観光などにより、周遊観光や交流人口の拡大を図っていく。		

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
体験プログラムの造成、磨き上げ及び受入体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 太郎川公園内多言語サインの設置 (R4) →観光振興総合支援事業費補助金の活用 (一社) ゆすはら雲の上観光協会による体験プログラムの造成、ツアー誘致 (R3~) 久保谷セラピーロードの案内板及びパンフレットを多言語にリニューアル (H30) 隈研吾建築案内ガイド開始 (R2) 森林フェスティバルの開催 (R3~) 四国運輸局「将来にわたって旅行者を惹きつける地域・日本の新たなレガシー形成事業」採択による町内観光資源の調査 (R4) 自然・体験アドバイザーの活用による案内ガイドの育成 (R4) 太郎川公園再整備事業は、(一社) 雲の上観光協会を中心としたコンソーシアム(共同事業体)により進めていくことが概ね決定 (R6) 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> (一社) ゆすはら雲の上観光協会の設立 (R3) 太郎川公園再生基本構想の策定 (R4) 体験プログラムの造成 R5: 11件
誘客活動	<ul style="list-style-type: none"> (一社) ゆすはら雲の上観光協会によるパンフレット、映像作品の施策によるPR (R4~) オーバーツーリズム対策の一環として「パークアンドライド実証事業」を実施 (R5) (四国運輸局) カルストエリア5市町による連携の取り組み (R4~) 栲原町産ブドウを使用したワインとカルスト産ゆすはら牛のイベント実施 (R4) 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光情報発信の強化 観光客受入体制の整備 町内周遊に向けた取り組み
受入基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> 隈研吾ミュージアムの整備 (R元) ゆすはら湿性植物園、太郎川公園キャンプ場の整備 (R4) →観光振興総合事業費補助金を活用 町内観光地に遊歩道を設置するなど受入体制を構築 (R4) →博覧会受入環境整備補助金を活用 森林セラピーロードにトイレを新設 (R4) →博覧会受入環境整備補助金を活用 太郎川公園再生基本構想の策定 (R4) →産振アドバイザー制度の活用 	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)主要宿泊施設宿泊者数	10,335人 (R4)				14,000人
(2)主要観光施設入込数	113,131人 (R4)				120,000人

※主要宿泊施設：マルシェ・ユスハラ、町内民宿事業者、新たなホテル (R11年度~(予定))

※主要観光施設：雲の上の図書館

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>新たなホテルを含む太郎川公園一体整備に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ■栲原町、ゆすはら雲の上観光協会 ・運営主体、運営方法の検討 ・施設整備と並行し誘客の方法について検討 ・公園内にアクティビティ施設を整備 □県(地域本部) ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 				実施設計、工事
<p>新たなレストラン整備にかかる地域食材を活用したメニュー開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ■栲原町、ゆすはら雲の上観光協会 ・専門家の導入による地域食材を使ったメニューの開発 ・栲原町産ブドウを使用したワインの活用検討 □県(地域本部) ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 				誘客方法の検討
<p>観光情報発信力と誘客活動の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ■栲原町、ゆすはら雲の上観光協会 ・体験プログラムの造成 ・専門家の導入による町内周遊プランの作成 ・(一社) 奥四万十高知と連携した観光情報発信及びインバウンド等への誘客活動 □県(地域本部) ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 				地域食材の洗い出し
<p>拠点観光施設スタッフの人材育成と町内事業者の受入態勢整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ■栲原町、ゆすはら雲の上観光協会 ・第二種旅行業登録 ・拠点観光施設、拠点宿泊施設から町内への波及を目指し町内事業者間の連携を推進 ・町内宿泊事業者の受入態勢の整備 □県(地域本部) ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 				メニュー開発、提供
				町内周遊プラン作成
				観光情報発信強化
				町内事業者への聞き取り
				町内連携の検討
				専門家を導入したスタッフ研修

高幡地域アクションプラン

		分野	観光
AP名 (実施地域)	No.20 栲原町の体験型・滞在型観光の推進 (栲原町)		
実施主体	◎(一社)ゆすはら雲の上観光協会、栲原町、栲原町商工会、松原まろうど会、坂本龍馬脱藩の郷 ゆすはらであいの会		
APへの位置づけ	H21.4月		
事業概要	栲原町の玄関口である太郎川公園を拠点とし、新たなホテル等の整備と併せて、観光スポットである隈研吾建築群、坂本龍馬脱藩の道や森林セラピーロードなどの滞在型観光や新たな体験プログラムの造成による体験型観光などにより、周遊観光や交流人口の拡大を図っていく。		

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
体験プログラムの造成、磨き上げ及び受入体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 太郎川公園内多言語サインの設置 (R4) →観光振興総合支援事業費補助金の活用 (一社) ゆすはら雲の上観光協会による体験プログラムの造成、ツアー誘致 (R3~) 久保谷セラピーロードの案内板及びパンフレットを多言語にリニューアル (H30) 隈研吾建築案内ガイド開始 (R2) 森林フェスティバルの開催 (R3~) 四国運輸局「将来にわたって旅行者を惹きつける地域・日本の新たなレガシー形成事業」採択による町内観光資源の調査 (R4) 自然・体験アドバイザーの活用による案内ガイドの育成 (R4) 太郎川公園再整備事業は、(一社) 雲の上観光協会を中心としたコンソーシアム(共同事業体)により進めていくことが概ね決定 (R6) 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> (一社) ゆすはら雲の上観光協会の設立 (R3) 太郎川公園再生基本構想の策定 (R4) 体験プログラムの造成 <p>R7: 2件</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光情報発信の強化 観光客受入体制の整備 町内周遊に向けた取り組み <p>・太郎川公園再整備計画のスケジュールに遅れが発生</p>
誘客活動	<ul style="list-style-type: none"> (一社) ゆすはら雲の上観光協会によるパンフレット、映像作品の施策によるPR (R4~) オーバーツーリズム対策の一環として「パークアンドライド実証事業」を実施 (R5) (四国運輸局) カルストエリア5市町による連携の取り組み (R4~) 栲原町産ブドウを使用したワインとカルスト産ゆすはら牛のイベント実施 (R4) ・太郎川公園内へのアクティビティ施設(ファンモック)整備 (R7) →高知県観光振興推進総合支援事業費補助金の活用 	<ul style="list-style-type: none"> 観光情報発信の強化 観光客受入体制の整備 町内周遊に向けた取り組み <p>・太郎川公園再整備計画のスケジュールに遅れが発生</p>
受入基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> 隈研吾ミュージアムの整備 (R元) ゆすはら湿性植物園、太郎川公園キャンプ場の整備 (R4) →観光振興総合事業費補助金を活用 町内観光地に遊歩道を設置するなど受入体制を構築 (R4) →博覧会受入環境整備補助金を活用 森林セラピーロードにトイレを新設 (R4) →博覧会受入環境整備補助金を活用 太郎川公園再生基本構想の策定 (R4) →産振アドバイザー制度の活用 	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)主要宿泊施設宿泊者数	10,335人 (R4)	12,257人			14,000人
(2)主要観光施設入込数	113,131人 (R4)	137,204人			120,000人

※主要宿泊施設：マルシェ・ユスハラ、町内民宿事業者、新たなホテル (R11年度~(予定))

※主要観光施設：雲の上の図書館

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>新たなホテルを含む太郎川公園一体整備に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ■栲原町、(一社)ゆすはら雲の上観光協会 ・運営主体、運営方法の検討 ・施設整備と並行し誘客の方法について検討 ・公園内にアクティビティ施設を整備 □県(地域本部) ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 			整備に向けた再検討	
<p>新たなレストラン整備にかかる地域食材を活用したメニュー開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ■栲原町、(一社)ゆすはら雲の上観光協会 ・専門家の導入による地域食材を使ったメニューの開発 ・栲原町産ブドウを使用したワインの活用検討 □県(地域本部) ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 		誘客方法の検討	地域食材の洗い出し	メニュー開発、提供
<p>観光情報発信力と誘客活動の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ■栲原町、(一社)ゆすはら雲の上観光協会 ・体験プログラムの造成 ・専門家の導入による町内周遊プランの作成 ・(一社)奥四万十高知と連携した観光情報発信及びインバウンド等への誘客活動 □県(地域本部) ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 		町内周遊プラン作成	観光情報発信強化	
<p>拠点観光施設スタッフの人材育成と町内事業者の受入態勢整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ■栲原町、(一社)ゆすはら雲の上観光協会 ・第三種旅行業登録 ・拠点観光施設、拠点宿泊施設から町内への波及を目指し町内事業者間の連携を推進 ・町内宿泊事業者の受入態勢の整備 □県(地域本部) ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 	町内事業者への聞き取り	町内連携の検討		専門家を導入したスタッフ研修

高幡地域アクションプラン

	分野	観光
AP名 (実施地域)	No.21 津野町まるごと体感！観光推進プロジェクト (津野町)	
実施主体	◎津野町	
APへの位置づけ	H21.4月	
事業概要	四国カルスト天狗高原や四万十川源流点、風の里公園、セラピーロードなどを中心とした観光資源と歴史や伝統文化、地域の食や体験プログラムなど津野町をまるごとPRし、年間を通じて多くの観光客の集客を図り、地域経済の波及効果につなげていく。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
観光資源を生かした魅力づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・星空観察会や植物観察会の実施 ・観光キャンペーンと連動したイベントや体験プログラムの磨き上げ・拡充、モニターツアーの実施 ・おんぱく手法を活用した津野町体験キャンペーン「つのつねづね」の実施（R2～） ・Eバイク整備（R3） ・プラネタリウムを活用した宿泊プラン造成（R4～） ・津野町観光振興計画の策定（H30） ・第2期 津野町観光振興計画の策定（R4） 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四国カルストの入込客数の増加 H30：70,206人 →R4：176,989人 →R5：174,935人 ・つのつねづね体験プログラム数 R5：12 R6（夏）：10 R6（冬）：14 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材不足 ・閑散期（冬季）対策 ・観光資源の磨き上げ ・宿泊キャパシティアップ ・効果的な情報発信 ・観光ガイドの育成とスキルアップ ・四国カルストの入込を町内へ波及させる仕組み
観光基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・四国カルストエリアや四万十川源流点エリアの観光施設等整備 フォレストアドベンチャー・高知オープン（R2） 天狗荘が星ふるヴィレッジ TENGUとしてリニューアルオープン（R3） せいらんの里が移転リニューアルオープン（R3） カルスト学習館がカルストテラスとしてリニューアルオープン（R4） 自然探勝区の整備（R4.2～9）、キャンプ場エリア再整備（R4） 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材不足 ・閑散期（冬季）対策 ・観光資源の磨き上げ ・宿泊キャパシティアップ ・効果的な情報発信 ・観光ガイドの育成とスキルアップ ・四国カルストの入込を町内へ波及させる仕組み
戦略的な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ、SNS（Facebook、Instagram）等での情報発信 ・マスコミ、ラジオ、CMでの情報発信 ・トクトク定期周遊の実施 ・Instagramハッシュタグキャンペーンやスタンプラリーの実施 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材不足 ・閑散期（冬季）対策 ・観光資源の磨き上げ ・宿泊キャパシティアップ ・効果的な情報発信 ・観光ガイドの育成とスキルアップ ・四国カルストの入込を町内へ波及させる仕組み
魅力を伝える人材の育成と観光推進体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・観光振興における地域おこし協力隊の導入（R1～3） ・観光ガイド研修会の実施 ・（株）五藤光学研究所との包括連携協定締結（R2） ・地域活性化起業人の起用（R3～R5） ・星のソムリエ養成講座の実施（R3） ・四国カルストエリア5市町による広域連携会議の実施（R2～R4） ・四国カルストエリア広域5市町による包括連携協定締結（R5.3） 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材不足 ・閑散期（冬季）対策 ・観光資源の磨き上げ ・宿泊キャパシティアップ ・効果的な情報発信 ・観光ガイドの育成とスキルアップ ・四国カルストの入込を町内へ波及させる仕組み

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)主要観光施設入込数	414,146人 (R4)				456,000人
(2)主要宿泊施設宿泊者数	13,946人 (R4)				15,800人
(3)観光消費額	338,000千円 (R4)				385,000千円

※入込数：「星ふるヴィレッジ TENGU」、「風車の駅」、「道の駅布施ヶ坂」、「吉村虎太郎邸」、「フォレストアドベンチャー・高知」、「カルストテラス」
 ※宿泊者数・観光消費額：「星ふるヴィレッジ TENGU(キャビン・テングロー含む)」、「遊山四万十せいらんの里」、「森の巣箱」、「葉山の郷」

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>自然や歴史、伝統文化を生かした魅力づくり</p> <p>■津野町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四国カルスト、星、四万十川源流点など豊富な観光資源を楽しめる機会の提供 ・津野山古式神楽や龍馬脱藩の道など伝統文化や歴史を体感できるイベントやプログラムの開発 ・日常の暮らしや遊び、伝承されてきた食文化を体感できるコンテンツの造成 <p>□県（地域本部）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し、アドバイザー導入提案 	<p>イベントやプログラム検討</p>	<p>提供開始</p>	<p>コンテンツ磨き上げ</p>	
<p>安心・安全な受入環境の整備</p> <p>■津野町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多言語パンフレットの制作、決済環境の整備などインバウンド観光の推進 ・アウトドアコンテンツの開発、延泊等受入や宿泊キャパシティ増に向けた検討 <p>□県（地域観光課、地域本部等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 	<p>町内施設の調査</p>	<p>受入環境整備</p>		
<p>ターゲットや目的に合わせた情報発信と周遊につなげる取り組み</p> <p>■津野町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンデータの活用、観光客へのアンケート、ヒアリング調査、モニターツアー ・ホームページやSNS、マスコミを通じた情報発信、スタンプラリー等の実施 <p>□県（地域本部）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報支援、各種支援制度の情報提供 			<p>誘客のための情報発信の充実</p>	<p>周遊につなげる企画の実施（スタンプラリー、Instagramキャンペーン等）</p>
<p>観光関連事業者のおもてなし力の強化</p> <p>■津野町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業者間の連携強化、ガイド育成、スキル向上のための講習会の実施 ・地域の特色を生かした料理メニューの検討・提供 <p>□県（地域本部）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 			<p>観光ガイドの育成、スキルアップ</p>	<p>魅力的な料理メニューの検討・提供</p>
<p>広域観光組織と連携体制の強化</p> <p>■津野町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（一社）奥四万十高知や四国カルスト広域連携推進協議会との連携 			<p>近隣市町と連携した広域での取組</p>	

高幡地域アクションプラン

	分野	観光
AP名 (実施地域)	No.21 津野町まるごと体感！観光推進プロジェクト (津野町)	
実施主体	◎津野町	
APへの位置づけ	H21.4月	
事業概要	四国カルスト天狗高原や四万十川源流点、風の里公園、セラピーロードなどを中心とした観光資源と歴史や伝統文化、地域の食や体験プログラムなど津野町をまるごとPRし、年間を通じて多くの観光客の集客を図り、地域経済の波及効果につなげていく。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
観光資源を生かした魅力づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・星空観察会や植物観察会の実施 ・観光キャンペーンと連動したイベントや体験プログラムの磨き上げ・拡充、モニターツアーの実施 ・おんぱく手法を活用した津野町体験キャンペーン「つのつねづね」の実施（R2～） ・Eバイク整備（R3） ・プラネタリウムを活用した宿泊プラン造成（R4～） ・津野町観光振興計画の策定（H30） ・第2期 津野町観光振興計画の策定（R4） ・<u>町内の観光拠点施設にARコンテンツの整備（R7～）</u> 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四国カルストの入込客数の増加 H30：70,206人 →R4：176,989人 →R5：174,935人 →R6：176,655人 ・つのつねづね体験プログラム数 ・四国カルスト広域連携推進協議会の設立（R5）
観光基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・四国カルストエリアや四万十川源流点エリアの観光施設等整備 フォレストアドベンチャー・高知オープン（R2） 天狗荘が星ふるヴィレッジ TENGUとしてリニューアルオープン（R3） せいらんの里が移転リニューアルオープン（R3） カルスト学習館がカルストテラスとしてリニューアルオープン（R4） 自然探勝区の整備（R4.2～9）、キャンプ場エリア再整備（R4） 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材不足
戦略的な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ、SNS（Facebook、Instagram）等での情報発信 ・マスコミ、ラジオ、CMでの情報発信 ・<u>高知龍馬空港コルトン看板広告設置（R7）</u> ・<u>帯屋町広告ビジョンでの情報発信（R7）</u> ・トウトク定期周遊の実施 ・Instagramハッシュタグキャンペーンやスタンプラリーの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・閑散期（冬季）対策 ・観光資源の磨き上げ ・宿泊キャパシティアップ ・効果的な情報発信 ・観光ガイドの育成とスキルアップ
魅力を伝える人材の育成と観光推進体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・観光振興における地域おこし協力隊の導入（R7～） ・観光ガイド研修会の実施 ・（株）五藤光学研究所との包括連携協定締結（R2） ・地域活性化起業人の起用（R3～R5） ・星のソムリエ養成講座の実施（R3） ・四国カルストエリア5市町による広域連携会議の実施（R2～R4） ・四国カルストエリア広域5市町による包括連携協定締結（R5.3） 	<ul style="list-style-type: none"> ・四国カルストの入込を町内へ波及させる仕組み ・<u>宿泊施設の整備の検討に遅れが発生</u>

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)主要観光施設入込数	414,146人 (R4)	<u>387,239人</u>			456,000人
(2)主要宿泊施設宿泊者数	13,946人 (R4)	<u>11,829人</u>			15,800人
(3)観光消費額	338,000千円 (R4)	<u>326,942人</u>			385,000千円

※入込数：「星ふるヴィレッジ TENGU」、「風車の駅」、「道の駅布施ヶ坂」、「吉村虎太郎邸」、「フォレストアドベンチャー・高知」、「カルストテラス」
 ※宿泊者数・観光消費額：「星ふるヴィレッジ TENGU(キャビン・テングロー含む)」、「遊山四万十せいらんの里」、「森の巣箱」、「葉山の郷」

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>自然や歴史、伝統文化を生かした魅力づくり</p> <p>■津野町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四国カルスト、星、四万十川源流点など豊富な観光資源を楽しめる機会の提供 ・津野山古式神楽や龍馬脱藩の道など伝統文化や歴史を体感できるイベントやプログラムの開発 ・日常の暮らしや遊び、伝承されてきた食文化を体感できるコンテンツの造成 <p>□県（地域本部）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し、アドバイザー導入提案 		<p>イベントやプログラム検討</p>		
			<p>提供開始</p>	
			<p>コンテンツ磨き上げ</p>	
<p>安心・安全な受入環境の整備</p> <p>■津野町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多言語パンフレットの制作、決済環境の整備などインバウンド観光の推進 ・アウトドアコンテンツの開発、延泊等受入や宿泊キャパシティ増に向けた検討 <p>□県（地域観光課、地域本部等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 		<p>町内施設の調査</p>	<p>受入環境整備</p>	
			<p>アウトドアコンテンツ・簡易宿泊所や民泊事業の検討、見直し</p>	
<p>ターゲットや目的に合わせた情報発信と周遊につなげる取り組み</p> <p>■津野町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンデータの活用、観光客へのアンケート、ヒアリング調査、モニターツアー ・ホームページやSNS、マスコミを通じた情報発信、スタンプラリー等の実施 <p>□県（地域本部）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報支援、各種支援制度の情報提供 			<p>誘客のための情報発信の充実</p>	
			<p>周遊につながる企画の実施（スタンプラリー、Instagramキャンペーン等）</p>	
<p>観光関連事業者のおもてなし力の強化</p> <p>■津野町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業者間の連携強化、ガイド育成、スキル向上のための講習会の実施 ・地域の特色を生かした料理メニューの検討・提供 <p>□県（地域本部）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 			<p>観光ガイドの育成、スキルアップ</p>	
			<p>魅力的な料理メニューの検討・提供</p>	
<p>広域観光組織と連携体制の強化</p> <p>■津野町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（一社）奥四万十高知や四国カルスト広域連携推進協議会との連携 			<p>近隣市町と連携した広域での取組</p>	

高幡地域アクションプラン

分野 観光

AP名 (実施地域)	No.22 わざわざいこう「海洋堂ホビー館四万十」を核としたミュージアムのまちづくり (四万十町)
実施主体	◎四万十町、(株)海洋堂、(株)奇想天外
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	四万十町の観光拠点として「海洋堂ホビー館四万十」のブラッシュアップを図るとともに、四万十川流域の豊かな自然や食、伝統文化など四万十町の魅力ある資源を組み合わせ、周遊促進やインバウンドの誘致など、地域と連携を強化して交流人口の拡大を図る。

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
ミュージアム機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・(株)海洋堂との連携により、廃校となった小学校を活用し「海洋堂ホビー館四万十」の整備(H22)、開館(H23) →産振補助金の活用 ・誘導案内看板や第2駐車場の整備、臨時駐車場の設置(H24~26) ・第2駐車場内への簡易水洗トイレの設置(H28) ・ホビー館の休憩施設、販売スペース等の拡充に伴うリニューアル(R3)→地域観光振興交付金の活用 ・各種企画展の開催(H23~) ・全国初のミュージアム列車ホビートレインの運行(H23~) ・たにんごや(ホビー館に隣接した地元住民による食堂)オープン(H23) ・打井川バイパスの開通により大型観光バスの乗り入れが可能となった(H27) ・ホビートレインを「かっぱうようよ号」へリニューアル(H28) ・インバウンド商談・オプションツアーのPR(H29) ・経済波及効果算出と今後の目標策定支援(R3) →産振アドバイザー制度の活用 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常勤雇用者数 R5:6人 ・累計入館者数 50万人達成(R4年8月) <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来館者の満足度アップの為の仕掛けづくり(滞在時間の延長) ・集客力のある企画展・町周遊企画の開催 ・さらなる誘客促進及びリピーターの確保
関係機関と連携した集客力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・「海洋堂かっぱ館」のオープン(H24) ・ホビー館とかっぱ館の連携した企画展の開催(H24~) ・「海洋堂 Space Factory なんこく」と連携した企画展の開催(R4~) 	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
ホビー館年間入場客数	2.7万人 (R4)				5万人

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>ミュージアム機能の強化及びPRの充実</p> <p>■(株)奇想天外</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある企画展やイベント等の開催 ・予土線を活用した集客とPR ・オリジナルキャラクター(うまのすけび等)を活用した広報 ・オリジナル土産物商品開発・販売、広報・営業活動 ・SNS等を通じた情報発信の強化 ・食事提供システムの検討・導入(たにんごやの活用など) <p>□県(地域本部等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 				
		企画展の開催		
	オリジナルキャラクターを活用した広報・営業		オリジナル商品の開発	
		地域と連携した食事の検討・提供		
<p>関係機関と連携した集客力の向上</p> <p>■(株)奇想天外</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滞在時間の延長を促す仕組みづくり ・南国市等との周遊企画の展開 ・地域等との連携(観光協会、(一社)奥四万十高知、大正地域観光推進協議会等) <p>□県(地域本部等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 				
		南国市や地域との連携強化		
		連携企画及び周遊プランの検討・提供		

高幡地域アクションプラン

	分野	観光
AP名 (実施地域)	No.22 わざわざいこう「海洋堂ホビー館四万十」を核としたミュージアムのまちづくり (四万十町)	
実施主体	◎四万十町、(株)海洋堂、(株)奇想天外	
APへの位置づけ	H21.4月	
事業概要	四万十町の観光拠点として「海洋堂ホビー館四万十」のブラッシュアップを図るとともに、四万十川流域の豊かな自然や食、伝統文化など四万十町の魅力ある資源を組み合わせ、周遊促進やインバウンドの誘致など、地域と連携を強化して交流人口の拡大を図る。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
ミュージアム機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・(株)海洋堂との連携により、廃校となった小学校を活用し「海洋堂ホビー館四万十」の整備 (H22)、開館 (H23) →産振補助金の活用 ・全国初のミュージアム列車ホビートレインの運行 (H23～) ・誘導案内看板や第2駐車場の整備、臨時駐車場の設置 (H24～26) ・第2駐車場内への簡易水洗トイレの設置 (H28) ・ホビートレインを「かっぱようよ号」へリニューアル (H28) ・インバウンド商談・オプションツアーのPR (H29) ・ホビー館の休憩施設、販売スペース等の拡充に伴うリニューアル (R3) →地域観光振興交付金の活用 ・経済波及効果算出と今後の目標策定支援 (R3) →産振アドバイザー制度の活用 ・<u>展示内容の一部リニューアル (R7)</u> ・<u>ジオラマ展及びエヴァンゲリオン展の開催 (R7)</u> 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常勤雇用者数 R6: 5人 ・累計入館者数 50万人達成 (R4年8月) ・<u>ジオラマ展の開催 (R7.4月～6月)</u> ・<u>来館者数: 5,608人</u> ・<u>エヴァンゲリオン展の開催 (R7.7月～11月)</u> ・<u>来館者数: 11,317人</u> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集客力のある企画展の開催 ・さらなる誘客促進及びリピーターの確保 ・<u>SNS等による広報強化</u>
関係機関と連携した集客力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・「海洋堂かっぱ館」のオープン (H24) ※R6.2.13～休館 ・ホビー館とかっぱ館の連携した企画展の開催 (H24～) ・「海洋堂 Space Factory なんこく」と連携した企画展の開催 (R4～) ・<u>町内周遊企画の開催 (R6)</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・集客力のある企画展の開催 ・さらなる誘客促進及びリピーターの確保 ・<u>SNS等による広報強化</u>

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
ホビー館年間入場客数	2.7万人 (R4)	1.7万人			5万人

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>ミュージアム機能の強化及びPRの充実</p> <p>■(株)奇想天外</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある企画展やイベント等の開催 ・予土線を活用した集客とPR ・オリジナルキャラクター (うまのすけっぴ等) を活用した商品開発・広報・営業 ・SNS等を通じた情報発信の強化 <p>□県 (地域本部等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 		企画展の開催		
		オリジナルキャラクターを活用した商品の開発・広報・営業		
		地域と連携した食事の検討・提供		
<p>関係機関と連携した集客力の向上</p> <p>■(株)奇想天外</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滞在時間の延長を促す仕組みづくり ・南国市等との周遊企画の展開 ・地域等との連携 (観光協会、(一社)奥四万十高知、大正地域観光推進協議会等) <p>□県 (地域本部等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 		南国市や地域との連携強化		
		連携企画及び周遊プランの検討・提供		

高幡地域アクションプラン

	分野	観光
AP名 (実施地域)	No.23 ~しまんとがわのまんなか~四万十町観光交流促進事業 (四万十町)	
実施主体	◎四万十町、(一社)四万十町観光協会 等	
APへの位置づけ	H23.4月	
事業概要	四万十町の山・川・海の豊かな地域資源が作りあげた景観や歴史、文化等に磨きをかけるとともに、ものづくりや食を中心としたまちづくりを進めることで、四万十町流域での滞在型観光を推進する。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
受入態勢の充実・整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤイロチョウネイチャーセンターオープン (H26) ・打井川バイパス開通 (H27) ホビー館への大型バス通行可 ・「2016 奥四万十博」関連 イベント/体験プログラム造成 (H28) ・自然体験型観光キャンペーン関連 町内施設整備や体験プログラムの造成 (H29~) ・新型コロナウイルス感染症対策「奥四万十じも旅キャンペーン」開催 (R2) ・総務省「地域活性化企業人」制度を活用した観光メニューの造成 (R3~5) ・総務省「地域力創造アドバイザー」の導入による観光施設の磨き上げ (R4~) 	<p>【成果】 施設等利用者数 R5 : 77.4 万人</p> <p>【課題】 ・観光資源の磨き上げ及び滞在時間の延長 ・周遊ルートの造成と情報発信の強化</p>
観光資源の造成・磨き上げ	<ul style="list-style-type: none"> ・四万十南予横断ツーリバービューライドの開催 (H24~) ・四万十川ジップラインのオープン (R2) →観光振興推進総合支援事業費補助金の活用 ・ホビー館のリニューアル (R3) →地域観光振興交付金の活用 ・三島キャンプ場のリニューアル (R5) →地域観光振興交付金の活用 ・四万十オートキャンプ場ウェル花夢グランピングの整備 (R5) →観光振興推進総合支援事業費補助金の活用 ・ふるさと交流センター整備計画基本構想策定 (R6) →観光振興推進総合支援事業費補助金の活用 	
情報発信力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・「2016 奥四万十博」HPへの情報掲載 (H28) ・町内主要施設 5箇所への看板設置 (H28) ・窪川まちあるきガイドコースへの看板設置 (H30) ・四万十町公式 SNS (Instagram、LINE@など) の開設 (R2) ・四万十町観光協会 HP 改修 (R3) 	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
施設等利用者数※	78.3 万人 (R4)				82 万人

※町内宿泊施設及び主要観光施設の利用者数

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>観光ガイドの充実、周遊ルートの造成</p> <p>■ 四万十町、(一社)四万十町観光協会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草花ガイドの育成、植物観察ツアーの企画 ・民泊の受入検討、インバウンド環境の整備 ・四万十川流域での文化、景観、食、ものづくりを生かした周遊ルートの作成 <p>□ 県 (地域本部等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産振アドバイザー制度の活用を提案、各種支援制度の情報提供 				
<p>観光資源の造成・磨き上げ</p> <p>■ 四万十町、(一社)四万十町観光協会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町有観光関連施設の整備・磨き上げ、自然や文化、食を生かした体験プログラムの造成・磨き上げ <p>□ 県 (地域本部等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産振アドバイザー制度の活用を提案、各種支援制度の情報提供 				
<p>情報発信力の強化</p> <p>■ 四万十町、(一社)四万十町観光協会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅等拠点との連携や SNS 等を活用した効果的な情報発信 ・「花とみどりのまちづくり」による PR <p>□ 県 (地域本部等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との橋渡し 				

高幡地域アクションプラン

	分野	観光
AP名 (実施地域)	No.24 四万十町観光交流拠点施設の整備 (四万十町)	
実施主体	◎四万十町	
APへの位置づけ	R2.4月	
事業概要	高速道路の延伸を見据え、窪川中央インターから窪川地区、大正地区、十和地区への交流人口の拡大など人の流れをつくるため、花などをテーマとした全町的な展開で、事業・拠点施設整備を実施することにより、新たな観光客等を含め町内での滞留・滞在を推進する。また、町内への周遊促進による商工・観光事業者の所得向上と地域の活性化につなげる。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
受入体制の充実・整備	<ul style="list-style-type: none"> ・奥四万十博関連イベント/体験プログラム造成（継続） ・大正・十和まちづくり推進協議会における植栽活動（継続） ・自然体験型観光キャンペーン関連 町内施設整備や体験プログラムの造成（H29～） ・インバウンド観光推進事業（H30～） ・花とみどりのまちづくり推進事業（R5～） 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本計画及び基本設計の策定
観光交流拠点施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・観光拠点施設等整備事業（継続） ・こいのぼり公園再生整備事業（R元） ・四万十川アドベンチャーパーク整備事業（R元～）（ジップライン） ・基本構想策定に向けた実行可能性調査の実施（R2） →産振補助金の活用 ・基本計画及び基本設計の策定（R4）→産振補助金の活用 ・住民説明会の開催及び意見公募の実施（R5） ・基本計画及び基本設計の再策定（R6） 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力的な拠点施設の整備 ・効果的な運営体制の構築 ・観光資源の磨き上げ、町内全体への周遊促進及び滞在時間延長による地域経済への波及
周遊、滞留・滞在型観光の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・奥四万十観光磨き上げ事業の実施（継続） ・幕末維新博連携事業の実施（H29～30） ・自然体験型観光キャンペーン関連事業の実施（R元～） ・町内各事業所と連携した町内周遊企画の実施（R元～） ・観光列車活用事業（R元～） ・観光博覧会「牧野博士の新休日」関連事業の実施（R4～） 	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
道の駅集客数※	40.5万人 (R4)				49.7万人

※道の駅あぐり窪川、道の駅四万十大正、道の駅四万十とおわ

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>受入体制の充実・整備</p> <p>■四万十町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光交流拠点の活用・運営等に関する関係団体等との協議・連携 ・町内各地の花をテーマとした施設の整備や既存の取り組みの磨き上げ <p>□県（地域本部等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受入体制充実のための産振アドバイザー制度の活用を提案、各種支援制度の情報提供 		関係団体等との協議		施設を活用した取り組み
				町内の既存施設や取り組みの磨き上げ
<p>実施設計の策定</p> <p>■四万十町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見公募の結果を反映した計画等の見直し、拠点施設の実施設計策定 <p>□県（地域本部等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携・調整、各種支援制度の情報提供 <p>施設整備</p> <p>■四万十町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設整備及び運営開始 <p>□県（地域本部等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種支援制度の情報提供 	計画見直し	実施設計		施設整備及び運営
<p>情報発信力の強化</p> <p>■四万十町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅等拠点との連携による情報発信、町内周遊観光促進事業の実施 <p>□県（地域本部等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周遊促進・長期滞在型観光の推進にかかる産振アドバイザー制度の活用を提案、各種支援制度の情報提供 				情報発信、観光資源の磨き上げ
				周遊観光の取り組み

高幡地域アクションプラン

	分野	観光
AP名 (実施地域)	No.23 ~しまんとがわのまんなか~四万十町観光交流促進事業 (四万十町)	
実施主体	◎四万十町、(一社)四万十町観光協会 等	
APへの位置づけ	H23.4月	
事業概要	四万十町の山・川・海の豊かな地域資源が作りあげた景観や歴史、文化等に磨きをかけるとともに、ものづくりや食を中心としたまちづくりを進めることで、四万十町流域での滞在型観光を推進する。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
受入態勢の充実・整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤイロチョウネイチャーセンターオープン (H26) ・打井川バイパス開通 (H27) ホビー館への大型バス通行可 ・「2016 奥四万十博」関連 イベント/体験プログラム造成 (H28) ・自然体験型観光キャンペーン関連 町内施設整備や体験プログラムの造成 (H29~) ・新型コロナウイルス感染症対策「奥四万十も旅キャンペーン」開催 (R2) ・総務省「地域活性化企業人」制度を活用した観光メニューの造成 (R3~5) ・総務省「地域力創造アドバイザー」の導入による観光施設の磨き上げ (R4~) 	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設等利用者数 R6:72.3万人 ・観光交流拠点整備の基本計画策定 (R6) <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光資源の磨き上げやイベント・体験プログラム等を通じた入込数の増加
観光資源の造成・磨き上げ	<ul style="list-style-type: none"> ・四万十南予横断ツーリバービューライドの開催 (H24~) ・四万十川ジップラインのオープン (R2) →観光振興推進総合支援事業費補助金の活用 ・ホビー館のリニューアル (R3) →地域観光振興交付金の活用 ・観光交流拠点施設整備基本計画及び基本設計の策定 (R4) →産振補助金の活用 ・三島キャンプ場のリニューアル (R5) →地域観光振興交付金の活用 ・四万十オートキャンプ場ウェル花夢グランピングの整備 (R5) →観光振興推進総合支援事業費補助金の活用 ・観光交流拠点施設整備基本計画の再策定 (R6) ・ふるさと交流センター整備計画基本構想~基本計画・基本設計策定 (R6~R7) →観光振興推進総合支援事業費補助金の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・周遊ルートの造成(サイクリングコースの検討等) ・観光交流拠点施設から町内周遊を促進するための更なる仕組みづくり
情報発信力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・「2016 奥四万十博」HPへの情報掲載 (H28) ・町内主要施設 5箇所への看板設置 (H28) ・窪川まちあるきガイドコースへの看板設置 (H30) ・四万十町公式 SNS(Instagram、LINE@など)の開設 (R2) ・四万十町観光協会 HP改修(R3) 	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
施設等利用者数※	78.3万人 (R4)	72.3万人			82万人

※町内宿泊施設及び主要観光施設の利用者数

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
<p>観光ガイドの充実、周遊ルートの造成</p> <p>■四万十町、(一社)四万十町観光協会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草花ガイドの育成、植物観察ツアーの企画 ・四万十川流域での文化、景観、食、ものづくりを生かした周遊ルートの作成 <p>□県 (地域本部等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産振アドバイザー制度の活用を提案、各種支援制度の情報提供 				<p>草花ガイド育成、ツアー開催</p> <p>周遊ルートの造成</p>
<p>観光資源の造成・磨き上げ</p> <p>■四万十町、(一社)四万十町観光協会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然や文化、食を生かした体験プログラムの造成・磨き上げ ・ふるさと交流センターの改修整備 ・観光交流拠点の整備 <p>□県 (地域本部等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産振アドバイザー制度の活用を提案、各種支援制度の情報提供 		<p>基本構想</p> <p>基本計画</p> <p>実施設計</p> <p>整備</p>	<p>計画見直し</p> <p>実施設計</p> <p>開発許可および整備</p>	
<p>情報発信力の強化</p> <p>■四万十町、(一社)四万十町観光協会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅等拠点との連携や SNS 等を活用した効果的な情報発信 <p>□県 (地域本部等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との橋渡し 				<p>四季折々の旬な情報発信</p>